

第69卷

第2号

滋賀 植物防疫



写真提供：滋賀県

令和6年（2024）3月

一般社団法人 滋賀県植物防疫協会

目 次

I 令和5年産 水稻・麦・大豆の作柄、被害概要

- 1. 水稻の作柄・被害概要 1
- 2. 麦・大豆の作柄・被害概要 2

II 令和5年度 共同防除事業実績

- 1. 無人ヘリコプターによる防除事業実績
 - (1) 全国の状況 3
 - (2) 滋賀県の実施状況 3
 - (3) 無人ヘリコプターの稼働状況 4
 - (4) 安全対策の周知徹底 5
 - (6) 全国、滋賀県の無人ヘリコプター実績表 8

III 令和5年度 地上防除事業実績

- 1. 地上防除事業実績 20
- 2. 水稻地上防除機の稼働状況 21
- 3. 水稻・麦・大豆共同防除事業 25

IV 令和5年度 農薬展示ほ事業等

- 1. 展示ほ設置状況 29
- 2. 農薬展示ほ成績書目次 30
- 3. 農薬展示ほ殺菌殺虫剤成績書 31
- 4. 農薬展示ほ除草剤成績書目次 55
- 5. 農薬展示ほ除草剤成績書 56
- 6. 新農薬委託試験状況 63

- 協会だより 64

I 令和5年産 水稻作柄・被害概要

1. 作柄概要

- ・田植最盛期は、平年並みの5月10日となった。
- ・穂数は、5月下旬～6月上旬の日照不足等の影響により分けつが抑制されたことから「やや少ない」となった。
- ・1穂当たりもみ数は、幼穂形成期が天候に恵まれたこと、穂数がやや少なくなったことによる補償作用があったことから「やや多い」となった。
- ・全もみ数は、穂数がやや少なく、1穂当たりもみ数がやや多くなったことから「やや多い」となった。
- ・出穂最盛期は、6月中旬以降、気象が高温・多照に推移したことから、平年に比べ2日早い「7月29日」となった。
- ・登熟は、出穂・開花期である7月下旬～8月中旬が記録的な高温となった影響を受け、不稔もみが平年より多く発生したことから「やや不良」となった。
- ・刈取最盛期は、平年に比べ5日早い「9月10日」となった。
- ・近畿農政局滋賀拠点発表による県下の作況指数は10月25日現在、「97」の「やや不良」。

令和5年産水稻の作付面積及び予想収穫量

近畿農政局滋賀拠点 10月25日現在

区 分		単位	県 計	湖 南	湖 北
令和4年産	作 付 面 積	ha	2 8 , 3 0 0	1 9 , 4 0 0	8 , 8 8 0
	10a当たり収量	kg	5 0 4	5 1 1	4 9 0
	予 想 収 穫 量	t	1 4 2 , 6 0 0	9 9 , 1 0 0	4 3 , 5 0 0
	作 況 指 数	—	9 7	9 7	9 8
前 年 対 比	作 付 面 積	%	9 7 . 6	9 7 . 5	9 7 . 6
	10a当たり収量	%	9 6 . 4	9 6 . 1	9 7 . 0
	予 想 収 穫 量	%	9 4 . 0	9 3 . 6	9 4 . 6

(計と内訳が一致しないのは、ラウンドのためである。)

2. 被害概要

- ・気象被害については、局地的な大雨及び台風7号接近の影響を受け、穂ずれや倒伏が発生した。7月降水量が少なかった地域において、一部ほ場で土壌水分不足となり干害が発生した。
- ・病害については、8月上旬以降の天候不順により、一部地域においていもち病が発生した。
- ・虫害については、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による食害が次発生した。
- ・獣害については、県下全域の山間部において、イノシシ、シカ、サルによる踏倒し及び食害が発生した。
- ・鳥害については、移植直後にカラスによる食害が発生した。

(資料提供；滋賀県農業共済組合)

令和5年産 麦作柄・被害概要

1. 作柄概要

(1) 播種期～発芽期（11月上旬～12月上旬）

10月中旬から11月中旬は降水量が少なく、ほ場準備や播種作業は順調に進み、出芽・苗立ちは良好であった。

(2) 分げつ期～節間伸長期（12月上旬～3月下旬）

11月中旬までに播種したところでは、初期分げつは順調であったが、11月下旬以降に播種した圃場では、12月中下旬の低温により初期生育は緩慢であった。

1月下旬～2月第1半旬の気温が平年より低く、全体的に分げつは緩慢となった。

3月の気温は平年より高く、生育は進み、草丈は高くなったが、茎数は少なかった。

(3) 出穂期～開花期（4月上旬～下旬）

出穂期は、六条大麦（ファイバースノウ）で4月9日頃（平年より5日早い）、小麦は農林61号で4月6日頃（平年より8日早い）、ふくさやかで4月2日頃（平年より8日早い）、びわほなみで3月29日（平年より9日早い）となった。

4月の気温が平年よりやや高くなったことから、開花期も出穂期と同様に早まった。

4月下旬および5月上旬の強雨により、一部ほ場において倒伏が確認された。

(4) 登熟期～収穫期（5月上旬～6月上旬）

5月は5半旬までは気温、日照時間が平年並で推移したが、5月29日に平年より8日早く梅雨入りし5月6半旬から6月上旬は降雨が平年より多く、収穫作業が遅れた。

成熟期は、六条大麦（ファイバースノウ）は5月22日頃（平年より3日早い）、小麦は農林61号で5月31日頃（平年より4日早い）、ふくさやかで5月29日頃（平年より3日早い）、びわほなみで5月28日頃（平年より2日早い）となった。

2. 被害概要

土壌湿潤害：11月下旬の降雨並びにその後の降雪により、土壌が湿潤状態となり、根の生育が阻害され生育不良となった。

雨害湿潤害：収穫期に多湿な気候条件が続き、降雨の影響で刈り遅れや倒伏が発生した結果、一部ほ場で穂発芽が発生した。

風水害：4月下旬及び5月上旬の集中豪雨により倒伏し、生育不良となった。

寒害：1月下旬～2月上旬の気温が平年より低く、分げつ不足等が生じた。

病害：2月から3月にかけて、縞萎縮病による葉の黄化が散見された。一部で黒節病、4月下旬以降の多雨により赤カビ病の発生も見られたが、被害は軽微であった。

獣害：山間部の一部圃場で防護柵及びネットにより対策は講じていたが、出芽期からシカ、イノシシによる食害が発生し生育が不良となった。

鳥害：湖辺部や河川に近い圃場で野鳥（オオバン等）による食害が発生し生育が不良となった。

令和5年産 大豆作柄・被害概要

1. 生育・作柄・被害概要

・本年は、台風の影響が少なく、周期的に適度な降雨があり生育は、おおむね良好であったことから、収量は、平年並みからやや多くなった。

・病虫害の発生では、7月下旬から8月上旬の気温が高かったため、タバコガ類、ハスモンヨトウ、吸実性カメムシ類による子実への加害により被害が発生した。

・獣害では、山間部の一部ほ場で防護柵及びネットにより対策は講じていたがシカ、サル、イノシシによる食害が発生した。

（資料提供：NOSAI 滋賀）

Ⅱ 令和５年度 共同防除事業実績

１． 無人ヘリコプターによる防除事業

(１) 全国の状況（令和４年度 農林水産省発表）

産業用無人ヘリコプターによる防除は、地上防除に比べて病虫害防除コストの低減及び労働力の軽減を図ることができ、また、地域全体で発生する病虫害の効率的防除に優れた効果を発揮することから、機体数及び防除面積ともに年々増加してきていたが、ドローンを利用した防除が始まり無人ヘリ防除は、減少傾向にある。

令和３年度の面積は、令和５年９月以降に発表された。

令和４年度全国の無人ヘリコプター散布面積 単位：h a

項 目	水稻	麦	大豆等	その他	合 計
散布面積	747, 159	53, 330	48, 078	9, 999	858, 5665
前年対比（面積）	△91, 422	△5, 075	1, 106	3, 992	△91, 399
〃 （割合）	89. 1%	91. 3%	102. 4%	166. 5%	90. 4%

４７都道府県のうち無人ヘリ防除を実施しているのは４４道府県で、昨年と比べると石川県（＋3, 880ha）、長野県（＋1, 092ha）で増加している。主に水稻散布で増えたものである。なお、多くの県（37 県）で散布面積が減少している。

無人ヘリの機体数は、全国で2, 744 機 滋賀県では51 機である。

オペレーター資格者は全国で9, 842 人 滋賀県では253 人となっている。

（詳細 表１）

なお、一般社団法人農林水産航空協会では農林水産航空事業の推進と併せて無人ヘリコプターに係る安全対策として、①安全対策マニュアル、合図マンマニュアルの作成・配布 ②教育研修施設の指定と指導教官の導入 ③認定整備士並びに整備事業所の認定 ④機体の所属が確認できるように機体に登録番号の標記を中心に無人ヘリ散布にかかる研修会を開催するなどの安全対策を講じている。

平成２７年１２月の航空法の一部改正にともない国土交通省への代行申請の手続きを実施している。

(２) 本県の実施団体別防除状況 ー令和５年度ー

本県での水稻、麦、大豆の無人ヘリコプター散布状況は下の表のとおりで、水稻・麦・大豆合わせて18, 041ha で前年対比すると△72ha (99. 6%) 減少した。水稻の散布が前年を下回った。

* 本県の無人ヘリコプター散布面積

単位：h a

項 目	水稻	麦	大豆	合 計
散布面積	8, 324	6, 291	3, 426	18, 041
前年対比（面積）	△1, 021	74	875	△72
〃 （割合）	89. 1%	101. 2%	134. 3%	99. 6%
市町数	18	18	16	—

（その他散布面積は除く）

無人ヘリによる散布面積は、水稻では総防除面積の 25.9%を、麦で 62.8%、大豆では、51.4%を占め、無人ヘリによる防除が大きな割合を占めている。

防除対象病虫害は、水稻ではウンカ・カメムシ類が全体の 86.7% (7,220ha) で最も多く、次いで、いもち・ウンカ・カメムシ類が 6.0% (501ha) である。

特に、斑点米対策としてのカメムシ類の防除が中心となっている。

麦の赤かび病防除は、19 市町等で実施され、防除面積は 6,291ha (前年対比+74ha)。昨年は赤かび病の発生が多く追加防除を実施した地域がでた。

また、大豆の防除は、紫斑病・カメムシ・ハスモンヨトウを対象に 16 市町で実施され、防除面積は 3,426ha (前年対比△591ha)。

水稻防除対象病虫害 (無人ヘリ防除)	割合
カメムシ類・ウンカ類	86.7%
いもち・カメムシ類・ウンカ	6.0%
いもち病・紋枯病・カメムシ類	4.2%

植物防疫協会の請負防除面積及び実施団体自主防除面積は、次の表のとおりである。

単位：ha

項 目	水稻	麦	大豆	合 計
① 植物防疫協会請負面積	2,181	1,707	427	4,315
② 実施団体自主防除面積	6,142	4,584	2,999	13,725
防除面積合計 ③=①+②	8,323	6,291	3,426	18,040
請負防除の割合 ①/③	26.2%	27.1%	12.5%	23.9%

請負防除は、水稻 14 市町で、麦は 11 市町そして大豆は 6 市町で実施された。請負防除の占める割合は、総防除面積の 23.9%とおおよそ 4 分の 1 に減少している。

内訳は、水稻では 26.2%、麦では 27.1%で、大豆では 12.5%。

ドローンによる散布が広がる傾向にあり、無人ヘリ防除が減少しつつある。

(詳細 表 2. 3. 4)

(3) 水稻の生育状況と無人ヘリコプターの稼働状況

5 年産水稻の生育は、田植え以降の日照不足で分げつが抑制されたが、6 月中旬以降高温・多照に推移したことから出穂期は、平年より 2 日早い 7 月 29 日となった。

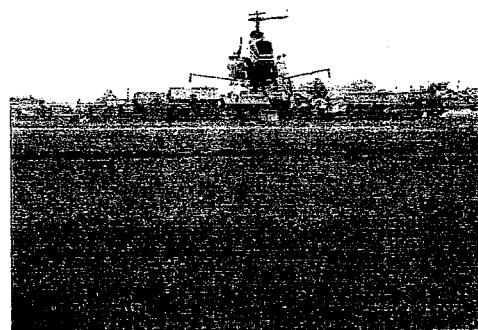
7 月下旬から 8 月中旬が記録的な高温となった影響を受け、不稔もみが平年より多く発生した。

病害については、8 月上旬以降の天候不順により、いもち病が一部地域において発生した。

局地的な大雨や台風 7 号の接近の影響により、穂ずれや倒伏が発生した。

虫害では、スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) による食害が発生したものの被害は軽微であった。

作柄は「やや不良」の「97」となった。



無人ヘリコプターによる県内の水稻防除は、出穂期を中心に7月中旬から8月中旬にかけて実施された。

水稻の請負防除は、7月13日～8月26日の25日間（前年7月15日～8月27日の30日間）で延べ123機（前年延べ152機）が稼働し、1機当たりの防除面積は17.7ha（前年18.8ha）であった。天候不良による延期が7日発生したものの大きな変更はなかった。

麦は、4月6日～5月18日の20日間（前年4月19日～5月20日の22日間）で延べ85機（前年延べ100機）が稼働し、1機当たりの防除面積は20.1ha（前年20.2ha）であった。天候不良による延期が8日発生した。

大豆は、8月30日～9月22日の14日間で延べ25機（前年延べ31機）が稼働し1機当たりの防除面積は、17.1ha（前年16.3ha）で、紫斑病、ハスモンヨトウ、カメムシ類を中心に防除が実施された。

水稻、麦、大豆委託防除は、ドローンによる散布が広まり無人ヘリ委託防除は減少した。

（詳細 表5－1～3）

（4）無人ヘリ飛行技術競技会の開催

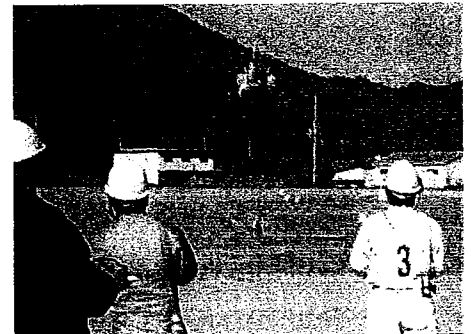
令和5年10月20日（金）近江八幡市津田町にある近江八幡市立運動公園グラウンドにおいて、第23回無人ヘリ飛行技術競技会を開催した。

競技には4実施団体から11チームが出場し、「飛行の安定度、技能の精度、周囲と機体等の安全確認」の項目を中心に技術を競いあった。

優勝は、寺島・佐藤チーム（（有）共同ファーム）。

なお、優勝チームは埼玉県熊谷市で開催の全国大会に出場した。

（飛行技術競技会）



（5）無人ヘリ防除安全講習会の開催

令和5年6月28日（水）JA全農しが野洲総合センターにおいて、無人ヘリ防除安全運航対策会議を開催、関係者23人が出席した。研修では、ヤンマーヘリ&アグリ（株） 老原眞氏より「無人ヘリ安全フライトについて」事故事例に基づき事故防止対策等の講演を受けた。

その後、県農政水産部みらいの農業振興課 有元主幹より「滋賀県農薬危害防止運動について」また、「滋賀県における無人航空機による農薬散布に係る安全ガイドラインについて」改正内容等について説明を受けた。

研修後、今後の安全対策について協議した。

（6）安全対策の周知徹底

農林水産省では、令和3年度の無人航空機事故における原因の分析と究明を図り今後の事故防止に努めることから、「無人航空機による農薬の空中散布における安全対策」を整理し実施団体等へ周知した。

1. 操縦者と補助者の連携強化

空中散布等の実施中において、操縦者は迅速かつ正確に障害物等に関する情報を操縦者に伝達すること。また、操縦者は補助者からの指示の確認を毎回行うこと。

- (1) 機体と障害物との距離を見誤ったことや、別の障害物に気をとられたことなどにより架線や建物へ接触するといった、危険度の高い重大な物損事故に繋がることが多く、そのリスクの大きさから特に留意する必要がある。
- (2) 操縦者及び補助者は次の点に留意して、空中散布の実施前からの連携強化を行うことが重要である。
 - (ア) 作業への慣れによる慢心や「わかっているだろう、見えているだろう」という思い込みは捨て、安全対策の基本に立ち戻り、互いの役割を確実に行うとともに、綿密な相互コミュニケーションを常に心掛けること。
 - (イ) トランシーバー等の通信不良を防ぐため、事前の実地確認の際にお互いの装備についても確認を徹底すること。
 - (ウ) 事前に合図が確認しやすく、また、機体が良く視認できる立ち位置を確認するとともに、散布中は適時双方で連絡を取り合い、障害物等の情報を共有すること。

2. 事前確認の徹底

操縦者及び補助者（遠隔操縦機を利用する場合）は、空中散布の実施前に共同で実地確認を実施し、危険箇所等の情報を確実に把握し、互いに共有すること。

- (1) 事前の実施区域の実地確認が不十分であったため、電線や支線等の架線の位置を把握できておらず接触してしまった事故等があった。

事前確認不足を主要因とする事故は、例年、事故件数の多くを占めていることから特に留意する必要がある。
- (2) 操縦者及び補助者は、次の点に留意して、空中散布等の実施前に共同で実地確認を実施し、危険箇所等の情報を確実に共有することが重要である。
 - (ア) 特に、家屋等への引込線や電柱の支線等、見えにくい位置の作物や障害物を見落とさないよう実地確認を行うとともに、操縦者と補助者の経路・立ち位置を含めた飛行経路を設定する。
 - (イ) 実施確認の際に、受託した散布計画と異なる点があるなどの不明な点があれば、そのままにせず、実施主体やほ場の持ち主（依頼主）への確認を怠らないこと。
 - (ウ) 実地確認の結果、ほ場の上空に架線が入り込んでいるなど通常の飛行方法による空中散布の実施が困難な場合は、空中散布を実施しないこと。

3. 無人マルチローターを用いた空中散布等に係る安全対策の徹底について

無人マルチローターを用いた空中散布等は、機体の機能・性能を良く理解し、適切に実施すること。

- (1) 操縦に不慣れだったことによる事故や、操縦者の意図とは違う動きをした時に、適切なコントロールができなかったことによる建物等への接触といった事故が発生しており、危険度の高い重大な事故に繋がることが多く、そのリスクの大きさから特に留意する必要がある。

(2) 無人マルチローターを用いた空中散布等を行う際には次の点に留意して安全かつ適正な空中散布を実施することが重要である。

- (ア) 事前に取扱説明書やマニュアルを熟読し、機体の機能・性能を十分に理解するとともに機体が意図しない動きをした際にも、適切なコントロールが可能となるよう、技術向上に努めること。
- (イ) 山間部ではGPSの受信不良が起りやすいことに留意すること。また、GPS制御が働かない場合に対応できるよう、技術向上に努めること。
- (ウ) 必要に応じて、操縦技能を維持するため、航空法に規定された飛行禁止空域に該当しない人の往来や物件が存在しないほ場などで、航空法に規定された飛行の方法に従ってテストフライを行う。

4. 適切な飛行方法での飛行

架線付近での飛行など危険な飛行を行わないこと。また、隣接していないほ場や、飛行経路上に家屋、架線等があるほ場へ移動させる場合は、機体を着陸させ、陸上で運搬すること。

- (1) 架線等への接触事故について、ほ場間を移動する際に架線上を横断するなどの不適切な飛行を行ったことが原因として多く報告されている。これらは、作業時間を短縮させるために架線上（架線下）や家屋等がある散布除外区域を通過させる飛行を行ったことによる事故であり、操縦者の安全な飛行に対する意識の低下又は操作技術の過信が原因となるものである。操縦者は、自身の操作技術を過信することなく、また、常に安全な飛行を意識して飛行を行うこと。
- (2) また、ほ場内で旋回する際に、目測を誤って架線等に接触してしまった事例もみられた。飛行経路を設定するに当たっては、架線と平行な飛行になるよう経路を検討し、架線等の付近で旋回することがないようにすること。また、実地確認の後、前述の留意点を踏まえた適切な飛行経路が設定できず、空中散布の実施が適当でないと判断した場合は、空中散布を実施しないこと。

5. 農薬飛散の防止

空中散布の実施前には、実施区域及びその周辺に学校、病院等の公共施設、家屋、養蜂の巣箱、有機農業が行われているほ場等がある場合には、居住者等に対し、農薬を散布しようとする日時、農薬使用の目的、使用農薬の種類及び実施主体の連絡先についての情報提供を徹底すること。また、実施中は実施区域内及び周辺に人が立ち入らないよう常に注意すること。

- (1) 農薬の飛散による被害を防ぐため、事前の周知や散布直前の周辺の確認のほか、空中散布の実施中には見回りをするなど、周辺の安全管理を徹底すること。特に、実施区域に隣接する周辺ほ場の管理者へは事前の周知を必ず実施すること。
- (2) 空中散布の実施中においては、突然の突風等の急な天候の変化には十分注意すること。なお、天候の変化等により農薬が飛散する可能性がある判断した場合は、散布を即時中止すること。

表1. 令和4年度 無人ヘリコプターによる空中散布の実施状況(全国)

農水省より発表の数値(令和5年9月)

都道府県名		令和4年度(無人ヘリ)					令和3年度(無人ヘリ)					前年対比		機体 数	オペレー ター数
		水稻	麦	大豆	その他	計	水稻	麦	大豆	その他	計	面積	割合		
北海道		99,053	14,033	3,337	4,836	121,259	110,275	18,257	2,049	1,434	132,015	-10,756	91.9	238	1,562
東 北	青森県	46,897	139	3,069	143	50,248	48,040	147	3,324	207	51,718	-1,470	97.2	84	470
	岩手県	18,502	1,032	2,223	0	21,757	21,027	1,110	2,133	6	24,276	-2,519	89.6	79	290
	宮城県	42,438	3,775	14,028	112	60,353	48,974	4,090	13,611	225	66,900	-6,547	90.2	93	272
	秋田県	92,341	207	2,629	1,569	96,746	98,466	601	2,702	1,201	102,970	-6,224	94.0	247	903
	山形県	92,904	121	3,302	85	96,412	101,380	0	2,555	85	104,020	-7,608	92.7	136	864
	福島県	8,154	2	568	10	8,734	10,164	267	1,601	1	12,033	-3,299	72.6	12	95
小計		301,236	5,276	25,819	1,919	334,250	328,051	6,215	25,926	1,725	361,917	-27,667	92.4	651	2,894
関 東	茨城県	28,497	2,349	1,258	378	32,482	29,381	2,274	1,212	372	33,239	-757	97.7	62	374
	栃木県	24,883	5,377	600	0	30,860	31,285	5,646	734	0	37,665	-6,805	81.9	140	358
	群馬県	217	442	0	0	659	195	430	0	0	625	34	105.4	4	15
	埼玉県	3,588	2,977	176	155	6,896	3,722	3,063	204	235	7,224	-328	95.5	24	61
	千葉県	21,952	229	443	563	23,187	23,928	85	89	79	24,181	-994	95.9	32	214
	東京都	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	213	10
	神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	山梨県	190	0	7	0	197	214	0	9	0	223	-26	88.3	2	24
	長野県	5,091	13	453	108	5,665	4,143	0	364	66	4,573	1,092	123.9	42	116
	静岡県	3,921	145	33	108	4,207	3,894	157	32	164	4,247	-40	99.1	24	139
小計		88,339	11,532	2,970	1,312	104,153	96,762	11,655	2,644	916	111,977	-7,824	93.0	543	1,317
北 陸	新潟県	64,087	321	2,814	588	67,810	70,851	355	3,117	632	74,955	-7,145	90.5	185	764
	富山県	19,417	1,458	2,023	119	23,017	20,602	1,458	1,906	94	24,060	-1,043	95.7	25	249
	石川県	25,325	1,243	1,179	103	27,850	21,194	1,503	1,173	100	23,970	3,880	116.2	95	202
	福井県	17,854	712	651	2	19,219	17,958	2,965	574	0	21,497	-2,278	89.4	31	182
	小計	126,683	3,734	6,667	812	137,896	130,605	6,281	6,770	826	144,482	-6,586	95.4	336	1,397
東 海	岐阜県	3,069	115	0	0	3,184	7,018	1,910	1,465	0	10,393	-7,209	30.6	11	134
	愛知県	3,941	3,562	1,296	25	8,824	3,782	3,521	1,196	40	8,539	285	103.3	26	103
	三重県	7,743	1,839	615	184	10,381	8,738	2,164	820	153	11,875	-1,494	87.4	39	129
	小計	14,753	5,516	1,911	209	22,389	19,538	7,595	3,481	193	30,807	-8,418	72.7	76	366
近 畿	滋賀県	9,345	6,217	2,552	0	18,114	9,913	5,636	3,143	0	18,692	-578	96.9	51	253
	京都府	1,823	126	12	248	2,209	1,907	129	18	227	2,281	-72	96.8	5	18
	大阪府	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	302	14
	兵庫県	9,748	232	185	29	10,194	10,743	447	246	58	11,494	-1,300	88.7	56	102
	奈良県	49	72	21	0	142	35	80	12	0	127	15	111.8	5	6
	和歌山県	67	0	0	0	67	63	0	0	0	63	4	106.3	0	0
小計		21,032	6,647	2,770	277	30,726	22,661	6,292	3,419	285	32,657	-1,931	94.1	419	393
中 国 ・ 四 国	鳥取県	5,496	0	148	0	5,644	5,628	0	128	0	5,756	-112	98.1	12	31
	島根県	2,988	18	47	0	3,053	3,099	274	139	0	3,512	-459	86.9	22	68
	岡山県	4,110	768	42	0	4,920	4,511	1,210	16	0	5,737	-817	0.0	25	64
	広島県	3,851	8	0	0	3,859	4,122	0	0	0	4,122	-263	93.6	21	76
	山口県	8,116	106	237	0	8,459	9,384	236	177	0	9,797	-1,338	86.3	42	139
	徳島県	766	0	0	0	766	935	0	0	0	935	-169	81.9	7	15
	香川県	334	32	0	0	366	508	30	0	0	538	-172	0.0	6	6
	愛媛県	4,038	559	226	15	4,838	4,282	510	261	0	5,053	-215	95.7	24	48
	高知県	2,596	0	0	0	2,596	2,785	0	0	0	2,785	-189	93.2	16	46
	小計	32,295	1,491	700	15	34,501	35,254	2,260	721	0	38,235	-3,734	90.2	175	493
九 州	福岡県	741	307	47	340	1,435	1,440	354	99	341	2,234	-799	64.2	124	257
	佐賀県	16,966	3,403	3,116	18	23,503	18,118	3,529	1,856	0	23,503	0	100.0	45	274
	長崎県	10,747	818	130	136	11,831	10,690	629	124	161	11,604	227	0.0	31	183
	熊本県	15,301	496	254	7	16,058	20,779	603	271	0	21,653	-5,595	74.2	46	249
	大分県	3,373	57	17	0	3,447	25,244	335	64	0	25,643	-22,196	13.4	32	121
	宮崎県	9,092	20	283	0	9,395	11,138	45	232	22	11,437	-2,042	82.1	10	215
	鹿児島県	7,418	0	57	118	7,593	8,010	0	50	104	8,164	-571	0	18	120
小計		63,638	5,101	3,904	619	73,262	95,419	5,495	2,696	628	104,238	-30,976	70.3	306	1,419
沖縄県		130	0	0	0	130	137	0	0	0	137	-7	0	0	1
合 計		747,159	53,330	48,078	9,999	858,566	838,702	64,050	47,706	6,007	956,465	-97,899	89.8	2,744	9,842
前年対比(%)		89.1	83.3	100.8	166.5	89.8	95.2	113.2	92.8	86.3	96.1	99.1	-	98.0	98.6
前年対比増減		-91,543	-10,720	372	3,992	-97,899	-41,849	7,468	-3,678	-951	-39,009	-9,129	-	-57	-138

・農林水産省発表の面積。その他は、松くい虫、畑作物等、除草剤等。機体数は、所有者の住所に基づく。オペレーター数は有効認定者数(R4.3末時点)

表2. 令和5年度 無人ヘリコプター防除実績表

令和6年3月31日現在

市町名	旧市町村名	請負防除面積				自主防除面積				合計面積				前年対比
		水稲	麦	大豆	計	水稲	麦	大豆	計	水稲	麦	大豆	計	
大津市	大津市													
大津地域														
草津市						30.0	58.0	58.0	146.0	30.0	58.0	58.0	146.0	62.3
栗東市						167.0	207.0	105.0	479.0	167.0	207.0	105.0	479.0	93.4
守山市						715.0	266.0	660.0	1,641.0	715.0	266.0	660.0	1,641.0	132.4
野洲市		20.5			20.5	568.2	495.2	383.0	1,446.4	588.7	495.2	383.0	1,466.9	68.3
湖南地域		20.5			20.5	1,480.2	1,026.2	1,206.0	3,712.4	1,500.7	1,026.2	1,206.0	3,732.9	90.3
湖南市						37.0	76.4	44.9	158.3	37.0	76.4	44.9	158.3	101.9
甲賀市	水口町					388.6	146.4	163.8	698.8	388.6	146.4	163.8	698.8	100.1
	甲賀町	236.4	49.5		285.9					236.4	49.5		285.9	87.3
	甲南町	49.6			49.6					49.6			49.6	90.0
	信楽町													
	小計	286.0	49.5		335.5	388.6	146.4	163.8	698.8	674.6	195.9	163.8	1,192.6	96.5
甲賀地域		286.0	49.5		335.5	425.6	222.8	208.7	857.1	711.6	272.3	208.7	1,280.4	100.0
近江八幡市		53.9	45.2		99.1	729.6	1,291.5	753.7	2,774.8	783.5	1,336.7	753.7	2,873.9	149.7
東近江市	八日市市	46.1	103.2	46.0	195.3					46.1	103.2	46.0	195.3	118.5
	永源寺町					281.9	297.9	144.1	723.9	281.9	297.9	144.1	723.9	108.1
	蒲生町					340.6	151.4	133.5	625.5	340.6	151.4	133.5	625.5	99.9
	能登川町	94.2	205.2	33.9	333.3					94.2	205.2	33.9	333.3	133.9
	五個荘町	70.1			70.1					70.1			70.1	75.5
	湖東町	207.8	177.5	85.4	470.7					207.8	177.5	85.4	470.7	103.9
小計		418.2	485.9	165.3	1,069.4	622.5	449.3	277.6	1,349.4	1,040.7	935.2	442.9	2,418.8	107.2
日野町		76.7			76.7	348.8	45.0	32.0	425.8	425.5	45.0	32.0	502.5	75.0
竜王町		92.3	193.5		285.8					92.3	193.5		285.8	90.9
大中の湖						281.6	186.0		467.6	281.6	186.0		467.6	97.7
東近江地域		641.1	724.6	165.3	1,531.0	1,982.5	1,971.8	1,063.3	5,017.6	2,623.6	2,696.4	1,228.6	6,548.6	116.2
彦根市		261.4	91.4	51.8	404.6	435.0	592.0	181.0	1,208.0	696.4	683.4	232.8	1,612.6	100.1
愛荘町		53.3	47.2		100.5					53.3	47.2		100.5	68.5
豊郷町		33.2	31.0	12.2	76.4					33.2	31.0	12.2	76.4	65.6
甲良町		259.2	279.9	166.3	705.4					259.2	279.9	166.3	705.4	89.7
多賀町		173.0	190.3	18.3	381.6					173.0	190.3	18.3	381.6	84.0
湖東地域		780.1	639.8	248.6	1,668.5	435.0	592.0	181.0	1,208.0	1,215.1	1,231.8	429.6	2,876.5	92.4
米原市	山東町					459.2	155.9	50.4	665.5	459.2	155.9	50.4	665.5	83.7
	伊吹町	46.5	26.8	13.2	86.5					46.5	26.8	13.2	86.5	88.8
	米原町	87.1			87.1	19.6				106.7			87.1	83.2
	近江町	26.1	9.8		35.9					26.1	9.8		35.9	78.9
	小計	159.7	36.6	13.2	209.5	478.8	155.9	50.4	685.1	638.5	192.5	63.6	894.6	85.8
長浜市	長浜市													
	浅井町					572.8	247.6	89.7	910.1	572.8	247.6	89.7	910.1	98.0
	びわ町	107.7	105.2		212.9	104.5	102.0	31.0	237.5	212.2	207.2	31.0	450.4	107.4
	高月町					162.0	89.0		251.0	162.0	89.0		251.0	102.7
	湖北町	76.1	151.3		227.4	56.9	125.9	121.1	303.9	133.0	277.2	121.1	531.3	82.3
小計		183.8	256.5		440.3	896.2	564.5	241.8	1,702.5	1,080.0	821.0	241.8	2,142.8	95.7
湖北地域		343.5	293.1	13.2	649.8	1,375.0	720.4	292.2	2,387.6	1,718.5	1,013.5	305.4	3,037.4	92.6
高島市	マキノ町					217.4	11.0	41.5	269.9	217.4	11.0	41.5	269.9	93.8
	今津町	38.4			38.4					38.4			38.4	83.7
	安曇川町	25.4			25.4	129.0	14.8	6.0	149.8	154.4	14.8	6.0	175.2	87.2
	高島町	46.4			46.4	53.5	25.4		78.9	99.9	25.4		125.3	92.5
	朽木村					43.9			43.9	43.9			43.9	108.9
高島地域		110.2			110.2	443.8	51.2	47.5	542.5	554.0	51.2	47.5	652.7	91.9
無人ヘリ合計		2,181.4	1,707.0	427.1	4,315.5	6,142.1	4,584.4	2,998.7	13,725.2	8,323.5	6,291.4	3,425.8	18,040.7	99.6
ドローン合計		77.9	82.5		160.4	37.8			37.8	115.7	82.5		198.2	74.6
無人ヘリ+ドローン		2,259.3	1,789.5	427.1	4,475.9	6,179.9	4,584.4	2,998.7	13,763.0	8,439.2	6,373.9	3,425.8	18,238.9	99.2
前年度実績		2,865.0	2,154.1	505.6	5,524.7	6,608.2	4,199.6	2,046.2	12,854.0	9,473.2	6,353.7	2,551.8	18,378.7	98.1
前年対比 (%)		78.9	83.1	84.5	81.0	93.5	109.2	146.5	107.1	89.1	100.3	134.3	99.2	—

※請負防除は、各市町防除協議会等からの申請を県植防協会が取りまとめ、防除業者(全農滋賀県本部、東海スカイテック)に委託した面積を集計したもの。

※自主防除は、各市町防除協議会等実施団体が無人ヘリを保有するなどして、独自に実施した面積を報告に基づき集計したもの。

表3-1. 令和5年度 無人ヘリコプター 水稻 防除実施面積・使用薬剤 (請負)

実施主体名	市町名	防 除 面 積 (ha)		使 用 薬 剤	
		I	II	I	II
(株) アグリサポートおとうみ富士	野 洲 市	20.5		ノンラスダントツプロアブル	
甲賀町病害虫防除協議会	甲賀市甲賀地域	236.4		スタークル液剤10	
甲南町病害虫防除協議会	甲賀市甲南地域	49.6		スタークル液剤10	
近江八幡市病害虫防除協議会	近江八幡市	34.0		スタークル液剤10	
J A グリーン近江八幡西支店		19.9		ビーマイトスタークル、スタークル液剤10 (3.3ha)	
日野町病害虫防除協議会	日 野 町	76.7		スタークル液剤10	
竜王町病害虫防除協議会	竜 王 町	92.3		スタークル液剤10	
東近江市近江米振興協会 (JA東能登川)	東近江市能登川地域	62.3		スタークル液剤10	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市能登川地域	31.9		スタークル液剤10 キラッププロアブル (1.3ha)	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市五個荘地域	70.1		スタークル液剤10	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市八日市地域	46.1		スタークル液剤10	
JA湖東	東近江市湖東-愛東地域	207.8		スタークル液剤10 (108.3ha)、フジワ乳剤 (99.5ha)	
JA東びわこ稻枝営農センター		48.0		スタークル液剤10	
JA東びわこ彦根営農センター	彦 根 市	97.1		スタークル液剤10 (58.1ha) プラシダントツプロアブル (39.0ha)	
JA東びわこ東部営農センター		116.3		スタークル液剤10	
JA東びわこ東部営農センター	豊 郷 町	33.2		スタークル液剤10	
JA東びわこ東部営農センター	甲 良 町	259.2		スタークル液剤10	
多賀町病害虫防除協議会	多 賀 町	173.0		スタークル液剤10	
愛知中部農業振興近代化協議会	愛 荘 町	53.3		スタークル液剤10	
米原市病害虫防除協議会	米原市伊吹地域	46.5		スタークル液剤10 (29.7ha) ビーマイトスタークル (16.8ha)	
	米原市米原地域	87.1		スタークル液剤10	
	米原市近江地域	26.1		スタークル液剤10	
びわ地域農作物病害虫防除組合	長浜市びわ地域	107.7		キラッププロアブル	
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	76.1		キラッププロアブル	
今津町病害虫防除協議会	高島市今津地域	38.4		プラシダントツプロアブル (31.2ha)、プラシダントツプロアブル (7.2ha)	
西びわこ病害虫防除協議会	高島市高島地域	26.7	19.7	ノンラスダントツプロアブル	スタークル液剤10
	高島市安曇川地域	25.4		ノンラスダントツプロアブル	
合 計 (23実施団体)		2,161.7	19.7		

表3-2. 令和5年度 無人ヘリコプター 水稻 防除実施面積・使用薬剤（自主）

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)		使用薬剤	
		I	II	I	II
草津市農業振興協議会（中島ファーム）	草津市	30.0		ブランチントプロアブル バリアシエー	
栗東市病害虫防除協議会	栗東市	167.0		スタークル液剤10、ビーマイトスタークル	
(株) アグリサポートおとうみ富士	守山市	715.0		ノンブラスタントプロアブル	スタークル液剤10
	野洲市	430.0		ノンブラスタントプロアブル	スタークル液剤10
(株) グリーンちゅうず	野洲市	138.2		スタークルメイト液剤10	
湖南市病害虫防除協議会	湖南市	37.0		スタークル液剤10	
水口町病害虫防除協議会	甲賀市水口地域	388.6		スタークル液剤10、ブランチプロアブル（10ha）	
岡山病害虫防除運営委員会	近江八幡市	283.0		ブランチプロアブル、スタークル液剤10	
島学区営農運営組合	近江八幡市	65.7	82.3	ビーマイト	スタークル液剤10
野村町農事改良組合	近江八幡市	198.0		ビーマイトスタークル、スタークル液剤10（8ha）	
大中の湖病害虫防除協議会	大中の湖	281.6		ビーマイトスタークル、バクツブル、スタークル液剤10、ブランチプロアブル、	
大中の湖無人ヘリ防除組合	近江八幡市	100.6		スタークル液剤10	
大中の湖無人ヘリ防除組合	彦根市	85.0		スタークル液剤10	
日野町病害虫防除協議会	日野町	348.8		スタークルメイト液剤10	
J A 滋賀蒲生町	東近江市蒲生地域	221.0		スタークルメイト液剤10	
(有) アグリ蒲生	東近江市蒲生地域	119.6		スタークルメイト液剤10	
市原地区布引営農組合	東近江市永源寺地域	70.1	211.8	ブランチバグザル	トボシエー
JA 東びわこ稲枝営農センター	彦根市	350.0		スタークル液剤10、一部バリアシエー	
米原市病害虫防除協議会	米原市山東地域	459.2		トワイロアブル、トボシエー、ブランチ	
浅井地域農作物病害虫防除組合	長浜市浅井地域	531.3		キョウプロアブル	
443 営農	長浜市浅井地域	41.5		ブランチ乳剤、エクスプロアブル	
(株) 心笙	長浜市ひわ・高月	124.1		スタークル液剤10	
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	56.9		キョウプロアブル	
高月地域農作物病害虫防除組合	長浜市高月地域	162.0		キョウプロアブル	
マキノ町病害虫防除協議会	高島市マキノ地域	217.4		ビーマイトスタークル	
	高島市高島地域	53.5		ノンブラスタントプロアブル、スタークル液剤10（42.4ha）	
西びわこ病害虫防除協議会	高島市安曇川地域	109.0		ノンブラスタントプロアブル、スタークル液剤10（12.4ha）	
	高島市朽木地域	9.9	34.0	ノンブラスタントプロアブル	スタークル液剤10
(有) ライスステーションタカシマ	高島市安曇川町	20.0		ノンブラスタントプロアブル	
合 計		5,814.0	294.1		
県 計（請負＋自主）		7,975.7	313.8		

表3-3. 令和5年度 無人ヘリコプター 麦 防除実施面積・使用薬剤 (請負)

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)			使用薬剤名		
		I	II	追加	計	I	II 追加
甲賀町病害虫防除協議会	甲賀町	49.5			49.5	トップジンM [®] ル	
近江八幡市病害虫防除協議会	近江八幡市	8.3	8.3		16.6	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル	トップジンM [®] ル
JAグリーン近江八幡西支店	近江八幡市	14.3	14.3		28.6	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル	トップジンM [®] ル
竜王町病害虫防除協議会	竜王町	64.5	64.5	64.5	193.5	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル	トップジンM [®] ル ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市八日市地域	34.4	34.4	34.4	103.2	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル	トップジンM [®] ル ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル
東近江市近江米振興協会 (JA東能登川)	東近江市能登川地域	33.3			33.3	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市能登川地域	102.8	69.1		171.9	ミラビスフロア [®] ル	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル
湖東農業協同組合	東近江市湖東町地域	54.1	69.3	54.1	177.5	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル	トップジンM [®] ル ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル
愛知中部農業振興近代化協議会	愛荘町	23.6	23.6		47.2	トップジンM [®] ル	チルト乳剤25
JA東びわこ稲枝営農センター	彦根市	10.0	10.0		20.0	トップジンM [®] ル	チルト乳剤25
	彦根市	35.7	35.7		71.4	トップジンM [®] ル	チルト乳剤25
J A 東びわこ東部営農センター	豊郷町	15.5	15.5		31.0	トップジンM [®] ル	チルト乳剤25
	甲良町	139.9	140.0		279.9	トップジンM [®] ル	チルト乳剤25
多賀町病害虫防除協議会	多賀町	95.2	95.1		190.3	トップジンM [®] ル	チルト乳剤25
米原市病害虫防除協議会	米原市近江地域	4.9	4.9		9.8	ミラビスフロア [®] ル ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル	トップジンM [®] ル
米原市病害虫防除協議会	米原市伊吹地域	13.4	13.4		26.8	トップジンM [®] ル	チルト乳剤25
びわ地域農作物病害虫防除組合	長浜市びわ地域	49.8	55.4		105.2	トップジンM [®] ル	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	68.8	82.5		151.3	トップジンM [®] ル	ワ-クアツツ [®] フロア [®] ル
合 計 (15実施団体)		818.0	736.0	153.0	1,707.0		

表3-4. 令和5年度 無人ヘリコプター 麦 防除実施面積・使用薬剤（自主）

実施主体名	市町名	防除面積（ha）			使用薬剤名	
		I	II	追加	I	II・III
草津市農業振興協議会（中島ファーム）	草津市	58.0			トップジンM剤	
栗東市病害虫防除協議会	栗東市	69.0	69.0	69.0	トップジンM剤	トップジンM剤 ワークアツワフロアブル
(株) アグリサポートおとうみ富士	守山市	266.0			トップジンM剤	
	野洲市	403.0			トップジンM剤	
(株) グリーンちゅうず	野洲市	92.2			トップジンM剤	
湖南市病害虫防除協議会	湖南市	58.9	14.5	3.0	トップジンM剤	チルト乳剤25 トップジンM剤
水口町病害虫防除協議会	甲賀市水口地域	120.0	26.4		トップジンM剤	ワークアツワフロアブル
岡山病害虫防除運営委員会	近江八幡市	197.0	197.0	197.0	ワークアツワフロアブル	トップジンM剤
野村町農事改良組合	近江八幡市	280.0			ワークアツワフロアブル	
島学区営農運営組合	近江八幡市	73.1	73.1	73.1	ワークアツワフロアブル	ワークアツワフロアブル
大中の湖病害虫防除協議会	大中の湖	61.0	61.0	64.0	ワークアツワフロアブル	トップジンM剤 ワークアツワフロアブル
大中の湖無人ヘリ防除組合	近江八幡市	101.6	76.6	23.0	トップジンM剤	チルト乳剤 トップジンM剤
大中の湖無人ヘリ防除組合	彦根市	54.0	54.0		トップジンM剤	チルト乳剤
廣瀬敬一郎	日野町	45.0			トップジンM剤	
(有) アグリ蒲生	東近江市蒲生地域	151.4			トップジンM剤	
市原地区布引営農組合	東近江市永源寺地域	99.3	99.3	99.3	トップジンM剤 一部ミラビスフロアブル	トップジンM剤 ワークアツワフロアブル
JA東びわこ稲枝営農センター	彦根市稲枝地域	240.0	240.0	4.0	トップジンM剤	チルト乳剤25 トップジンM剤
米原市病害虫防除協議会	米原市山東地域	52.0	52.0	51.9	ワークアツワフロアブル	チルト乳剤25 トップジンM剤
浅井地域農作物病害虫防除組合	長浜市浅井地域	114.9	129.7		トップジンM剤	ワークアツワフロアブル
443営農	長浜市浅井地域	1.5	1.5		チルト乳剤25	トップジンM剤
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	56.9	69.0		トップジンM剤	ワークアツワフロアブル
(株) 心笙	長浜市びわ地域	102.0			トップジンM剤	
高月地域農作物病害虫防除組合	長浜市高月地域	48.0	41.0		トップジンM剤	ワークアツワフロアブル
マキノ町病害虫防除協議会	高島市マキノ地域	3.7	3.7	3.6	ミラビスフロアブル	チルト乳剤25 ワークアツワフロアブル
西びわこ病害虫防除協議会	高島市安曇川地域	5.1	5.0	4.7	トップジンM剤	ワークアツワフロアブル
	高島市高島地域	8.5	8.4	8.5	トップジンM剤	ワークアツワフロアブル
合 計		2,762.1	1,221.2	587.9	4,584.4	
県 計（請負＋自主）		3,580.1	1,957.2	740.9	6,291.4	

表3-5. 令和5年度 無人ヘリコプター 大豆 防除実施面積・使用薬剤(請負)

実施主体名	市町名	防除面積(ha)			使用薬剤	
		I	II	III	I	II・III
東近江市近江米振興協会(IAグリーン近江)	東近江市八日市地域	23.0	23.0		トボシエー	スターカ液剤10
東近江市近江米振興協会(IA東能登川)	東近江市能登川地域	24.6	9.3		トボシエー+トボシジメ	トボシエー
JA湖東	東近江市湖東地域	36.8	48.6		トボシジメ+トボシエー	トボシエー
	彦根市	35.4	16.4		トボシエー+トボシジメ	トボシエー
	甲良町	106.5	59.8		トボシエー	トボシエー
	豊郷町	12.2			トボシエー	トボシエー
J A 東びわこ東部営農センター	多賀町	5.0	13.3		トボシエー	トボシエー
多賀町病害虫防除協議会	米原市	13.2			トボシエー	トボシエー
米原市病害虫防除協議会	計(7実施団体)	256.7	170.4			

表3-6. 令和5年度 無人ヘリコプター 大豆 防除実施面積・使用薬剤(自主)

実施主体名	市町名	防除面積(ha)			使用薬剤	
		I	II	III	I	II・III
草津市農業振興協議会(中島ファーム)	草津市	58.0			トボシエー	トボシエー
栗東市病害虫防除協議会	栗東市	46.0	59.0		トボシエー	トボシエー
(株)アグリサポートおとうみ富士	守山市	111.0	549.0		トボシエー	トボシエー
(株)グリーンちゅうず	野洲市	10.0	288.0		トボシエー	トボシエー
湖南市病害虫防除協議会	野洲市	85.0			トボシエー	トボシエー
水口町病害虫防除協議会	湖南市	44.9			トボシエー	トボシエー
岡山病害虫防除運営委員会	甲賀市水口地域	49.8	78.7	35.3	トボシエー	トボシエー
島学区営農運営組合	近江八幡市	160.0	160.0	160.0	トボシエー	トボシエー
野村農事改良組合	近江八幡市	18.4			トボシエー	トボシエー
大中の湖無人ヘリ防除組合	日野町	110.3			トボシエー	トボシエー
廣瀬敬一郎	東近江市蒲生地域	89.9	43.6		トボシエー	トボシエー
(有)アグリ蒲生	東近江市永源寺地域	60.4	42.5	41.2	トボシエー	トボシエー
市原地区布引営農組合	彦根市稲枝地域	141.0	40.0		トボシエー	トボシエー
J A 東びわこ稲枝営農センター	米原市山東地域	50.4			トボシエー	トボシエー
米原市山東地域病害虫防除協議会	長浜市浅井地域	38.9	47.8		トボシエー	トボシエー
浅井地域農作物病害虫防除組合	長浜市浅井地域	1.5	1.5		トボシエー	トボシエー
(株)443	長浜市浅井地域	31.0			トボシエー	トボシエー
(株)心笙	長浜市びわ地域	70.0	51.1		トボシエー	トボシエー
湖北地域農作物病害虫防除組合	高島市マキノ町	41.5			トボシエー	トボシエー
マキノ町病害虫防除協議会	高島市安曇川町	6.0			トボシエー	トボシエー
(有)ライステーションタカシマ	計	1,401.0	1,361.2	236.5	トボシエー	トボシエー
合	計(請負+自主)	1,657.7	1,531.6	236.5	トボシエー	トボシエー
県					トボシエー	トボシエー

表3-7 令和5年度 ドローン 水稻 防除実施面積・使用薬剤 (請負)

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)		使用薬剤	
		I	II	I	II
J A グリーン近江八幡西支店	近江八幡市	13.7		ブタンキラップフロアブル、スタークル液剤10	
信楽町病害虫防除協議会	甲賀市信楽地域	35.0		スタークル液剤10	
愛知中部農業振興近代化協議会	愛荘町	10.3		スタークル液剤10	
西びわこ病害虫防除協議会	高島市高島地域	18.9		スタークル液剤10	
水稻 計		77.9			

表3-8 令和5年度 ドローン 麦 防除実施面積・使用薬剤 (請負)

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)		使用薬剤	
		I	II	I	II
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市能登川地域	38.4	8.4	ミレックスフロアブル	ワークアツプフロアブル
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市五個荘地域	22.1	13.6	ワークアツプフロアブル	トップジンMノル
麦 計		60.5	22.0		

ドローン委託合計	138.4	22.0	160.4	
----------	-------	------	-------	--

表4. 無人ヘリコプターによる病害虫別防除事業の推移

年 度 別	区 分	水										稲					大豆					合計	前年 対比 (%)
		いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	ウツカ (ヨコバイ)	計 (ha/%)	前年 対比 (%)	稈 数 (機)	面積/ 1機 (ha)	紫斑病 カメムシ類 ハスモンヨウモリ等	ハスモンヨウモリ カメムシ	カメムシ	計 (ha/%)	麦 赤かぶ病		
平成10年	実施面積 比率(%)	427 9.9	705 16.3	23 0.5	224 5.2	226 5.2	338 7.8	2,388 55.1				4,331 100.0	715.0	206	21.0					65 100.0		4,396 686.9	
11年	実施面積 比率(%)		929 14.2			2,148 32.8		3,280 50.0				6,554 100.0	152.0	314	20.9	22 6.4	147 42.7	175 50.9		344 100.0	165	7,063 160.7	
12年	実施面積 比率(%)		111 1.7			2,835 42.1	43 0.6	3,582 53.2	165 2.4	6,736 100.0	103.0	338	19.9				609 81.1	131 17.4	11 1.5	751 100.0	622	8,109 114.8	
13年	実施面積 比率(%)	97 1.4	224 3.2		27 0.4	2,288 32.3		3,399 48.0	1,040 14.7	7,075 100.0	105.0	338	20.9			40 4.0	563 56.0	362 36.0	40 4.0	1,005 100.0	1,061	9,141 112.7	
14年	実施面積 比率(%)	91 1.1	232 2.9		70 0.9	2,229 27.7	515 6.4	3,131 38.9	1,785 22.2	8,053 100.0	114.0	398	20.2			2 0.1	638 45.7	400 28.7	355 25.5	1,395 100.0	1,505	10,953 119.8	
15年	実施面積 比率(%)	131 1.3	642 6.7			826 8.6		5,883 61.0	2,157 22.4	9,639 100.0	119.7	469	20.5			70 8.7	314 39.1	350 43.5	70 8.7	804 100.0	3,018	13,461 122.9	
16年	実施面積 比率(%)	119 1.3	475 5.1		489 5.3	2,241 24.1	188 2.0	3,361 36.1	2,433 26.1	9,306 100.0	96.5	414	22.5			482 28.4	406 23.9	809 47.7		1,697 100.0	2,710	13,713 101.9	
17年	実施面積 比率(%)		91 1.0		121 1.3	2,462 25.8		4,423 46.4	2,428 25.5	9,525 100.0	102.4	414	23.0				859 55.1	701 44.9		1,560 100.0	2,368	13,453 98.1	
18年	実施面積 比率(%)	69 0.7				343 3.4		5,372 54.0	4,168 41.9	9,952 100.0	104.5	413	24.1			27 1.3	486 25.0	1,432 73.7		1,944 100.0	5,296	17,193 127.8	
19年	実施面積 比率(%)	139 1.4	118 1.2			2,390 24.5		2,880 29.6	4,233 43.4	9,760 100.0	98.2	413	23.7				1,313 53.0	1,163 47.0		2,476 100.0	3,643	15,888 92.4	
20年	実施面積 比率(%)	150 1.5	119 1.2			1,986 20.2		2,850 29.0	4,739 48.1	9,844 100.0	100.8	480	20.5			112 4.3	1,704 64.8	814 30.9		2,630 100.0	3,419	15,893 100.0	
21年	実施面積 比率(%)		60 0.6			503 5.0		4,654 46.7	4,758 47.7	9,975 100.0	101.3	494	20.2			104 4.1	1,637 64.3	805 31.6		2,546 100.0	3,718	16,239 102.2	
22年	実施面積 比率(%)	143 1.4				2,275 22.8		3,205 32.1	4,371 43.7	9,994 100.0	100.2	495	20.2			121 4.0	1,681 56.0	1,199 40.0		3,001 100.0	3,628	16,623 102.4	
23年	実施面積 比率(%)	156 1.6				160 1.6		3,077 32.1	6,579 66.0	9,972 100.0	99.8	503	19.8				2,108 68.1	988 31.9		3,096 100.0	4,256	17,324 104.2	
24年	実施面積 比率(%)	152 1.5				185 1.8		3,859 38.5	5,839 58.2	10,035 100.0	100.6	514	19.5			39 1.4	1,880 66.7	900 31.9		2,819 100.0	4,864	17,718 102.3	
25年	実施面積 比率(%)	143 1.3	35 0.3			130 1.2		3,943 36.0	6,707 61.2	10,958 100.0	109.2	531	20.6			47 1.6	1,969 66.0	968 32.4		2,984 100.0	4,324	18,266 103.1	
26年	実施面積 比率(%)	141 1.2	68 0.6					3,907 34.2	7,303 64.0	11,419 100.0	104.2	552	20.6			16 0.5	2,098 62.9	791 23.7	428 12.8	3,333 100.0	4,470	19,222 105.2	
27年	実施面積 比率(%)	157 1.4	70 0.7			45 0.4		3,887 35.3	6,856 62.2	11,015 100.0	96.5	566	19.5				2,350 67.2	1,134 32.4	14 0.4	3,498 100.0	4,754	19,267 100.2	
28年	実施面積 比率(%)	245 2.2	112 1.0					4,029 36.9	6,542 59.9	10,927 100.0	99.2	574	19.0			20.2 0.5	2,351 62.6	1,279 34.0	107 2.9	3,757 100.0	4,835	19,519 101.3	
29年	実施面積 比率(%)	46 0.4				408 3.8%		3,764 34.9	6,573 60.9	10,791 100.0	98.8	574	18.8			15.0 0.4	2,228 58.7	1,554 40.9		3,797 100.0	4,803	19,391 99.3	
30年	実施面積 比率(%)	333 3.1				144 1.3%		4,143 38.4	6,178 57.2	10,798 100.0	100.1	560	19.3				2,130 56.3	1,653 43.7		3,783 100.0	4,589	19,170 98.9	
令和元年	実施面積 比率(%)	184 1.7	77 0.7			108 1.0%		3,486 33.1	6,687 63.4	10,542 100.0	97.6	558	18.9			114 3.5	1,885 58.5	1,221 37.9		3,220 100.0	5,398	19,160 99.9	
2年	実施面積 比率(%)	173 1.7				509 4.9%		2,766 26.5	6,994 67.0	10,442 100.0	99.1	553	18.9			70 2.3	2,026 66.6	946 31.1		3,042 100.0	5,593	19,077 99.6	
3年	実施面積 比率(%)	173 1.7				197 2.0%		2,553 25.7	7,007 70.6	9,930 100.0	99.1	553	18.0			188 6.0	1,901 60.5	1,054 33.5		3,143 100.0	5,636	18,709 98.1	
4年	実施面積 比率(%)	109 1.2	0.0			13 0.1%		1,854 19.8	7,369 78.9	9,345 100.0	99.1	553	16.9			77 3.0	1,557 61.0	918 36.0		2,552 100.0	6,216	18,113 96.8	
5年	実施面積 比率(%)	175 2.1	70 0.9		7 0.1	351 4.2		501 6.0	7,220 86.7	8,324 100.0	89.1	428	19.4				2,036 59.4	1,156 33.8	234 6.8	3,426 100.0	6,291	18,041 99.6	

03/03/2022 09:13

・出穂期：7月27日（平年比 同日）
・イネいもち病の注意報（7月12日）

表5-2 令和5年度 麦委託無人ヘリコプター・ドローン防除日程表

[illegible]

出穂期 「農林61号」平年に比べ8日早い 4月6日頃、「ふくさやか」も8日早い4月2日頃、「びわぼなみ」は9日早い3月29日、大糸大菱(フアibaースノウ)は5日早い4月9日頃となった。

開花期も4月の気温が平年よりやや高くなったことから、出穂期と同様に早まった。

赤かび病 4月18日 防除情報 「麦類赤かび病の多発が懸念されます適期に防除を実施しよう」 4月27日 注意報第1号 「小麦赤かび病多発のおそれ」

Ⅲ 令和５年度 地上防除事業実績

1. 農作物病虫害別防除状況

水 稲・・・本年の主な病虫害発生状況は、P 3～6 のとおりである。

令和５年度の地上防除面積は、32,175ha で、令和元年度を１００として４年間で13.5％減少している。これは作付面積が減少していることと病虫害の発生予察による効果的な防除そして環境こだわり米の作付けが増加してきているのが要因と推測される。

病虫害別防除面積を見ると、斑点米対策としてカメムシ類への防除並びにいもち病等や害虫を対象とした箱施用剤による防除が主流となっている。（表 6-1、6-2）

水稻防除の主な病虫害

項目	カメムシ類 ウンカ類等	箱施薬（いもち病・ カメムシ類イネミズ ニカメイチュウ等）	いもち、ウン カカメムシ類	いもち病	いもち、紋 枯、ウンカ カメムシ類	その他	防除面積 合計
面積（ha）	8,858	9,800	7,353	2,468	3,255	441	32,175
割合（％）	27.5	30.5	22.8	7.7	10.1	1.4	100

麦・・・赤かび病対策として10,011haの防除が実施された。前年より57ha防除面積が減少した。

大豆・・・紫斑病、ハスモンヨトウを中心に6,663haの防除が実施された。（詳細 表 8）

2. 防除機の稼働状況

水 稲 防除機別の面積

防除機の種類	防除面積（ha）	防除割合（％）	背負式防除機による面積割合は、年々減少し令和元年では総防除面積の32.8％を占めていたが令和５年では26.8％に減少した。 箱施薬は、29.8％が31.1％へ、無人ヘリコプター防除は、28.3％が25.9％と横ばいし、背負式防除機で減少した分は、ドローン防除へと移行してきた。 ドローンによる防除は、2.2％が8.4％へ増加（詳細 表 7-I、7-2）
背負式防除機	8,636	26.8％	
箱施薬	9,997	31.1％	
無人ヘリコプター	8,348	26.0％	
セット動噴	909	2.8％	
ビーグル	1,498	4.7％	
ドローン	2,714	8.4％	
その他	73	0.2％	
合 計	32,175	100.0％	
備 考			

3. 水稻・麦・大豆共同防除事業

水稻、麦、大豆の共同防除実施面積は、次の表のとおりである。（詳細は表 8、表 9）

水稻の共同防除率は、昨年と比べると4.3％、麦では10.7％、大豆では4.8％減少した。

項目	共同 防除 面積（ha）	個人 防除 面積（ha）	総防除面積 （ha）	共同防除 面積割合	個人防除 面積割合	総防除 面積割合
水稻	14,046	18,129	32,175	43.7％	56.3％	100％
麦	7,980	2,031	10,011	79.7％	20.3％	100％
大豆	4,818	1,845	6,663	72.3％	27.7％	100％

表6-1. 令和5年度 水稻病害虫別防除実績 (各地域病害虫防除協議会等別集計)

単位:ha、防除比%

市町名	旧市町村名	いもち病	紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 カメムシ類 ウンカ類等	カメムシ類 ウンカ類	カメムシ類 ウンカ類	箱施薬		その他 病害虫名	合 計	令和2年度 水稻共済 引受面積	防除比
								カメムシ類 イネスズムシ ニカメイチュウ他	いもち病 カメムシ類 イネスズムシ ニカメイチュウ他				
大津市	大津、志賀	5			209	206					420	1,001	0.4
草津市					74	35	22	65	20		216	710	0.3
栗東市					167						167	312	0.5
守山市		15	2		715	77			28	7	881	1,016	0.9
野洲市	野洲、中主				920						920	1,109	0.8
	計	15	2	0	1,876	112	22	65	48	7	2,184	3,147	0.7
湖南市	石部、甲西町						383		184		567	397	1.4
甲賀市	水口町				10	386					396	843	0.5
	土山町					183			223		406	380	1.1
	甲賀町					313			330		643	634	1.0
	甲南町	6				193			198		397	451	0.9
	信楽町	21				186			98		305	243	1.3
	計	27			10	386	875		849		2,147	2,551	0.8
	計	27			10	386	1,258		1,033		2,714	2,948	0.9
近江八幡市					998	200	200		400		1,598	2,176	0.7
日野町						817	817		1,063		1,880	1,058	1.8
竜王町						840			270		1,110	833	1.3
大中の湖		21	1		237	161	161		40		699	593	1.2
東近江市	八日市、永源寺 能登川、五徳荘 蒲生、愛東、湖	2,000		40	1,840				1,700		8,121	4,691	1.7
	計	2,021	1	40	3,075	840	1,178		3,473		13,408	9,351	1.4
愛荘町	秦荘・愛知川町				654				408		1,062	857	1.2
彦根市		20				1,009			1,430		2,599	1,587	1.6
豊郷町						241			150		391	255	1.5
甲良町						349			295		644	367	1.8
多賀町						232			200		432	227	1.9
	計	20			654	1,831			2,483		5,128	3,293	1.6

市 町 名	旧市町村名	いもち病	紋枯病	いもち病 紋枯病	カメムシ類 ウンカ類	カメムシ類 ウンカ類等	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類等	箱 施 薬		その他 病害虫名	合 計	令和2年度 水稲共済 引受面積	防除比
								カメムシ類 イネズミウムシ ニカメイチュウ他	いもち病 カメムシ類 イネズミウムシ ニカメイチュウ他				
湖 北	米 原 市				180		933				1,113	1,407	0.8
	山東・米原 近江・伊吹												
	長 浜 市	92			477				535		1,104	1,000	1.1
	び わ 町								147		438	617	0.7
	浅 井 町								800		1,343	878	1.5
	虎 姫 町								250		404	330	1.2
	湖 北 町				218				265		483	771	0.6
	高 月 町						47				361	812	0.4
	木之本町	14			118						132	218	0.6
	余 呉 町	32			43						75	204	0.4
高 島	西浅井町	24			128						152	289	0.5
	計	162			984		47		1,997		4,492	5,119	0.9
	計	162			984		980		1,997		5,605	6,526	0.9
	マキノ町	135	2				238	90	106		614	507	1.2
	今 津 町						228		230		600	518	1.2
	安曇川町	2		116				2	137		452	962	0.5
	高 島 町	5		61					75		414	499	0.8
	朽 木 村	13		20					86		221	118	1.9
	新 旭 町	63					83	35	132		415	510	0.8
	計	218	2	197			549	127	766		2,716	3,114	0.9
合 計		2,468	5	237	3,442	5,416	7,353	192	9,800	7	32,175	29,380	1.1

表6-2. 水稻病害虫別防除実績の推移

病害虫名	いもち病	紋枯病	いもち病 紋枯病	カメムシ類 カメムシ類 ウンカ類	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類等	箱 施 薬		その他 病害虫名	合 計	令和2年度 水稲共済 引受面積	防除比
						カメムシ類 イネズミウムシ ニカメイチュウ他	いもち病 カメムシ類 イネズミウムシ ニカメイチュウ他				
年次											
令和元年度	2,578	13	43	10,283	7,439	1,806	9,318	0	37,203	29,978	1.2
令和2年度	2,734	37	47	10,465	6,871	1,131	10,342	11	38,062	29,380	1.3
令和3年度	2,711	20	46	10,171	6,641	199	10,332	11	37,728	29,380	1.3
令和4年度	2,707	23	72	9,795	6,602	201	10,126	16	36,237	29,380	1.2
令和5年度	2,468	5	237	8,858	7,353	192	9,800	7	32,175	29,380	1.1

表7-1. 令和5年度 地上防除機の稼働状況(水稻) (各地域病害虫防除協議会等別集計)

市町名	旧市町村名	背負式 動力散布機		トラクター装着式 大型散布機		カーペット ダスター		カーペット スプレーヤー		栽培管理用 ビークル		セット動噴		スーパースパ ーダースプレーヤー		無人ヘリ		無人航空機		箱施薬		防除面積 合計
		保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	
大津市	大津、志賀	80	194															5	226			420
草津市		114	101													1	30			85		216
栗東市																1	167					167
守山市		10	14													5	715	3	124	28		881
野洲市	野洲、中主	11	40													7	589		291			920
	計	135	155													14	1,501	8	415	113		2,184
湖南市	石部、甲西	76	262							3	62					1	37	1	22	184		567
甲賀市	水口町	10										1	7			3	389					396
	土山町	100	164															1	19	223		406
	甲賀町	103	77													2	236			330		643
	甲南町	175	132									13	8			3	49	1	10	198		397
	信楽町	235	141															5	66	98		305
	計	623	514	0	0							14	15			8	674	7	95	849		2,147
	計	699	776	0	0					3	62	14	15			9	711	8	117	1,033		2,714
近江八幡市	八幡、安土	20	62							6	200	4	38			4	784	8	114	400		1,598
日野町		31	94					4	33							4	425	10	265	1,063		1,880
竜王町		21	709													3	92	2	39	270		1,110
大中の湖		65	40							10	80	3	30			3	282	4	227	40		699
東近江市	八日市、永源寺、 能登川、五個荘、 備生、愛東、湖東	2,220	4,380							9	800					10	1,041	3	200	1,700		8,121
	計	2,357	5,285			4	33			25	1,080	7	68	0	0	24	2,624	27	845	3,473		13,408
愛荘町	秦荘、愛知川町	25	252							4	83	1	11			3	53	13	255	408		1,062
彦根市		160	100							4	200					25	696	9	173	1,430		2,599
豊郷町		13	78							2	33					1	33	4	97	150		391
甲良町		6	76													17	259	2	14	295		644
多賀町		20														10	173	6	59	200		432
	計	224	506							10	316	1	11			53	1,214	34	598	2,483		5,128

単位: 防除面積 ha

市町名	旧市町村名	背負式 動力散布機		トラクター装着式 大型散布機		カーペット ダスター		カーペット スプレーヤー		栽培管理用 ビークル		セット動噴		スーパーハイ ダースプレーヤー		無人ヘリ		無人航空機 ドローン		箱施薬		防除面積 合計
		保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	
湖 北	米原市	150	320	3	10	2	30			1	30	6	60			3	639	1	24			1,113
	長浜市	107	258									55	311			1		5		535		1,104
	びわ町	1	21													4	212	2	58	147		438
	浅井町	20										7				4	496	3	47	800		1,343
	虎姫町	10										7	78			3	76			250		404
	湖北町	7	6									3	42			1	133	3	37	265		483
	高月町	44	94							1	5					2	162	6	100			361
	木之本町	60	84													1	26		22			132
	余呉町	11	75																			75
	西浅井町	42	137																			152
高 島	計	302	675							1	5	17	431			15	1,105	21	279	1,997		4,492
	マキノ町	122	171									1	5			2	218	2	19	201		614
	今津町	30	153							1	5	3	78			3	38	2	96	230		600
	安曇川町	42	72									23	79			2	154	1	8	139		452
	高島町	221	81									12	115			3	100	4	43	75		414
	朽木村	90	31									4	45			2	44	2	15	86		221
	新旭町	91	217									1	2					4	29	167		415
	計	596	725							1	5	44	324	0	0	12	554	15	210	898		2,716
	合 計	4,543	8,636	0	10	2	30	4	33	41	1,498	89	909	0	0	130	8,348	119	2,714	9,997		32,175
	計																					

* 米原市は、無人ヘリ防除面積以外は前年度の面積を記載しています、

* 無人ヘリ機体数は所有者の住所でカウントする。

表7-2. 地上防除機稼働状況の推移(水稻)

年次	項目	背負式 動力散布機		トラクター装着式 大型散布機		カーペット ダスター		カーペット スプレーヤー		栽培管理用 ビークル		セット動噴		スーパーハイ ダースプレーヤー		無人ヘリ		無人航空機 ドローン		手まき 箱施薬		防除面積
		保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	保有 台数	防除 面積	
令和元年度			12,200	126		30	40			1,243		990		103		10,542		806		11,123		37,203
令和2年度			12,669	23		30	29			1,249		833		113		10,441		1,201		11,474		38,062
令和3年度			12,672	23		30	29			1,312		682		97		9,914		1,704		11,265		37,728
令和4年度			12,116	21		30	28			1,470		777		0		9,359		1,927		10,509		36,237
令和5年度			8,636	10		30	33			1,498		909		0		8,348		2,714		9,997		32,175

表8. 令和5年度 水稻・麦・大豆等の共同防除事業実績

単位:ha、%

地域	市町名	旧市町村名	水			稲			麦			大豆・その他		
			共同	個人	計	共同	個人	計	共同	個人	計	共同	個人	計
大	大津市	大津、志賀	400	20	420	95.2	136	27	163	74	83	83.4	9	89.2
	草津市		131	85	216	60.6	64	115	179	75	186	35.8	111	40.3
	栗東市		167		167	100.0	207		207	105	105	100.0		100.0
	守山市		715	166	881	81.2	259	175	434	364	422	59.7	58	86.3
	野洲市	野洲、中主	384	536	920	41.7	392	250	642	282	536	61.1	254	52.6
湖	計		1,397	787	2,184	64.0	922	540	1,462	826	1,249	63.1	423	66.1
	湖南市	石部、甲西	22	545	567	3.9	28	150	178	28	179	15.7	151	15.6
	甲賀市	水口町	389	7	396	98.2	136		136	164	164	100.0		100.0
		土山町	19	387	406	4.7		10	10		4	0.0	4	0.0
		甲賀町	236	407	643	36.7	49	72	121		65	40.5	65	0.0
		甲南町	49	348	397	12.3	12	1	13	9	15	92.3	6	60.0
賀	信楽町		35	270	305	11.5	4		4	22	22	100.0		100.0
			728	1,419	2,147	33.9	201	83	284	195	270	70.8	75	72.2
			750	1,964	2,714	27.6	229	233	462	223	449	49.6	226	49.7
		計	1,075	523	1,598	67.3	1,894	70	1,964	1,128	1,428	96.4	300	79.0
	近江八幡市	近江八幡・安土	723	1,157	1,880	38.5	31	41	72	12	71	43.1	59	16.9
東	日野町		597	513	1,110	53.8	301		301		0	100.0		-
	竜王町		409	290	699	58.5	186	72	258		11	72.1	11	0.0
	大中の湖													
	東近江市	八日市、永源寺 能登川、五個荘 蒲生、愛東、湖東	3,981	4,140	8,121	49.0	1,700	145	1,845	1,350	1,550	92.1	200	87.1
	計		6,785	6,623	13,408	50.6	4,112	328	4,440	2,490	3,060	92.6	570	81.4

地 域	市 町 名	旧市町村名	水			稲			麦			大豆・その他				
			共	同	個 人	計	共	同	防除率	共	同	個 人	計	共	同	防除率
湖 東	愛 荘 町	秦荘、愛知川町	185		877	1,062	17.4	48		621	669	7.2	165		165	0.0
	彦 根 市		719		1,880	2,599	27.7	870		250	1,120	77.7	200	485	685	70.8
	豊 郷 町		181		210	391	46.3	131		67	198	66.2		45	45	100.0
	甲 良 町		483		161	644	75.0	291			291	100.0		197	197	100.0
	多 賀 町		232		200	432	53.7	185			185	100.0		22	22	100.0
	計		1,800		3,328	5,128	35.1	1,525		317	2,463	61.9	365	749	1,114	67.2
湖 北	米 原 市	山東・米原/近江・伊吹	639		474	1,113	57.4	397			397	100.0		128	128	100.0
	長 浜 市	長 浜 市			1,104	1,104	0.0			308	308	0.0		137	137	0.0
		浅 井 町	768		575	1,343	57.2	106		30	136	77.9		28	105	73.3
		び わ 町	263		175	438	60.0	105		61	166	63.3	1	33	34	2.9
		虎 姫 町	80		324	404	19.8	9		29	38	23.7		14	14	0.0
		湖 北 町	200		283	483	41.4	298		170	468	63.7	203	77	280	72.5
		高 月 町	212		149	361	58.7	89		66	155	57.4			0	-
		木之本町	48		84	132	36.4	26			26	100			0	-
		余 呉 町			75	75	0.0				0	-			0	-
		西浅井町	15		137	152	9.9				0	-			0	-
	計	1,586		2,906	4,492	35.3	633		356	989	64.0	281	152	433	64.9	
	計	2,225		3,380	5,605	39.7	1,030		356	1,386	74.3	409	152	561	72.9	
高 島	マキノ町		224		390	614	36.5	11		6	17	64.7	41	1	42	97.6
	今 津 町		77		523	600	12.8			180	180	0.0		96	96	0
	朽 木 村		55		166	221	24.9				0	-			0	-
	高 島 町		170		264	434	39.2	25			25	100.0	6		6	100.0
	安 曇 川		154		278	432	35.6	15			15	100.0		3	3	0.0
	新 旭 町		9		406	415	2.2			44	44	0.0			0	-
	計		689		2,027	2,716	25.4	26		230	256	10.2	47	100	147	32.0
合 計			14,046		18,129	32,175	43.7	7,980		2,031	10,011	79.7	4,818	1,845	6,663	72.3

(注) 共同防除率とは、全体面積に対する市町村防除協議会等が共同で実施した防除面積の割合を示す。

無人ヘリコプターによる委託防除



水稻・麦・大豆 殺菌殺虫剤

令和5年12月
(一社)滋賀県植物防疫協会

その他
水稻除草剤、野菜、果樹等の殺菌殺虫剤の散布も行います。

大津市梅林一丁目14番17号
Tel: 077-521-8964 FAX: 077-521-8977
Email: shiga-syokubo@cap.ocn.ne.jp

農家・集落・実施団体の協力のもと共同防除体制で実施します(1日20ha)

各地域実施団体(病虫害防除協議会等・JA)を通じて申込んで下さい。

- ① 重労働の防除作業からの解放
- ② ローターから下向きに吹くダウンウォッシュ効果により株元までむらなく均一に散布
- ③ 短時間で確実な散布作業

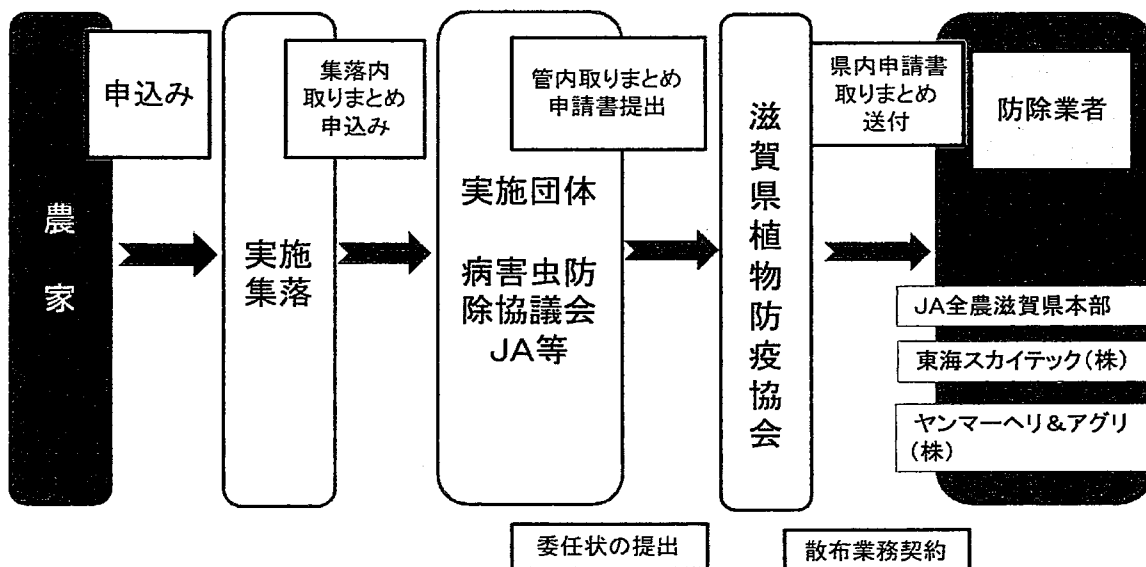
* 実施集落、実施団体へのお願い

- ① 作業体制は、集落から3名 実施団体1名 オペレーター及びナビゲーターの6人体制
- ② 散布地図の作成(対象外作物・危険個所の明記)
- ③ 公共施設・周辺住民への事前周知
- ④ オペレーターが事前に現地確認します

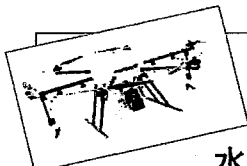
10a当たり散布料金は、1日当たり
1,550円/10a(税別)
負担金 10円/10a(税別)を加算します

飛行能力 1ha 約10分
散布方法 風速 3m/s以下
飛行高度 3~4m
散布間隔 5m又は7.5m
飛行速度 10~20km/h

無人ヘリコプターによる委託防除 申請手続の流れ



— 農家・地域・防除関係団体が一体となり安心して安全な防除に努めます —
詳しいお問合せは、滋賀県植物防疫協会へ



ドローンによる委託防除

令和5年12月

水稻・麦・大豆等

殺菌殺虫剤 散布の他

水稻除草剤、野菜、果樹等

の殺菌殺虫剤の散布も行います。

(一社)滋賀県植物防疫協会

大津市梅林一丁目14番17号

Tel: 077-521-8964 FAX: 077-521-8977

Email: shiga-syokubo@cap.ocn.ne.jp

農家・集落・実施団体の協力のもと共同防除体制で実施します。(1日10ha以上)

各地域実施団体(病虫害防除協議会等・JA)を通じて申込んで下さい。

- ①住宅周辺の圃場
- ②架線等入り組んだ圃場
- ③山間山脚地で無人ヘリ防除が困難な圃場
- ④無人ヘリ委託防除面積要件 20haを確保できない地域
- ⑤無人ヘリ委託防除出役人数が確保できない地域

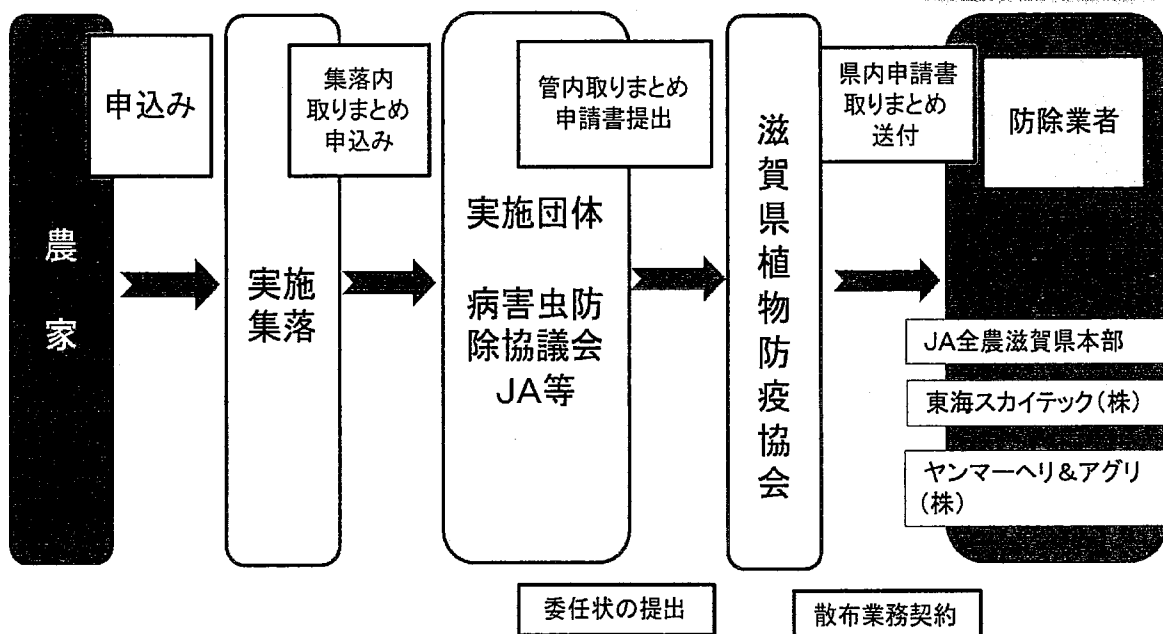
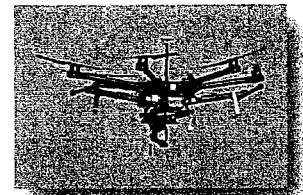
* 実施集落、実施団体へのお願い

- ①作業体制は、集落から2名 実施団体1名 オペレーター及びナビゲーターの5人体制
- ②散布地図の作成(対象外作物・危険個所の明記)
- ③公共施設・周辺住民への事前周知
- ④オペレーターが事前に現地確認します

10a当たり散布料金は、1日当たり
10ha以上 1,550円/10a(税別)
負担金 10円/10a(税別)を加算します

飛行能力 1ha 約20分
散布方法 風速 3m/s以下
飛行高度 2m
散布間隔 3~4m
飛行速度 15km/h

ドローンによる委託防除申請 手続の流れ



一農家・地域・防除関係団体が一体となり安心して安全な防除に努めますー
詳しいお問合せは、滋賀県植物防疫協会へ

令和5年度年度農薬展示は設置状況

農薬展示は、安全で効果が高く経済的な農薬を実証展示し、普及性を検討するもので「農薬展示は設置要領」に基づき各地域農業農村振興事務所農産普及課の協力を得て実施している。

令和5年度の設置状況は下表のとおりです。

(設置ヶ所数)

作物・薬剤別	地 域 農 産 普 及 課						農業 革新	計
	大津・南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島		
水稻 殺菌殺虫剤 (1剤)					1			1
麦 殺菌殺虫剤 (1剤)	1		1		1			3
野菜 殺菌殺虫剤 (5剤)	3	1	1	1		1		7
果樹 殺菌殺虫剤 (1剤)				1				1
水稻 除草剤 (8剤)	3	2	2	2		4		13
大豆 除草剤 (0剤)								0
野菜 除草剤 (0剤)								0
計 (18剤)	7	3	4	4	2	5	0	25

*設計検討会

令和5年4月19日に滋賀県農業技術振興センターにおいて、県関係機関、全農滋賀 県本部、県肥料商業組合および農薬会社が出席、農薬展示はの設計と調査方法等について協議した。

*成績検討会

令和5年7月27日に水稻除草剤、令和5年12月4日に殺菌殺虫剤等の成績検討会を滋賀県農業技術振興センターにおいて、県関係機関、全農滋賀県本部、県肥料商業組合および農薬会社の関係者が出席、防除効果、薬害の他、普及するうえでの意見及び農家の意見、問題点について検討し、総合評点を決定した。

*水稻除草剤現地巡回検討会

令和5年6月23日に水稻除草剤展示はの現地検討会を開催、県農業技術振興センター、各地域農産普及課、全農滋賀県本部、県肥料商業組合及び農薬会社等から18名が出席した。

本年度の水稻除草剤展示はは、8剤13ヶ所で設置されている内、4剤6ヶ所を巡回した。

現地では、各農産普及課担当者より中間成績書に基づき、調査概要が説明がされ、ほ場を観察しながら意見交換を行なった。現地巡回終了後、県農業技術振興センター栽培研修部山田主任主査より、「薬剤の効果はおおむね発揮されていた。」との講評があった。

巡回経路は下記のとおり。

彦根市田附町	カラットジャンボ／キラリジャンボ、 カラット400FG／キラリ400FG (ドローン散布)
近江八幡市西生来町	シンゲキジャンボ、カラット400FG／キラリ400FG
野洲市比留田	シンゲキジャンボ、ラオウジャンボ

令和5年度 農薬展示ほ殺菌殺虫剤 設置一覧表

No.	薬剤名	対象作物	展示目的	展示希望申込者	設置場所（計画）					
					大津南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島
1	稲大将箱粒剤/ スタウトアレスモン ガレ箱粒剤	水 稲	いもち病 紋枯病 いもスゝムシ いもトコイシ ウカ類 コブノメイガ いもムシ こめイチュウ フタホトコガ いも類 の効果・薬害確認	* 協友アグリ 住友化学					● No.1 A	
2	ミラビスフロアブル 無人航空機 地上防除	小 麦	赤かび病 効果の確認	シジエンタ ジャパン	● No.2 B		● No.3 B		● No.4 A 無人ヘリ	
3	ネコナカットフロアブル	ほうれんそう	ケナガコナダニ類 新規薬剤の効果確認	協友アグリ	● No.5 B					● No.6 B
4	グレースシア乳剤	非結球アブラ ナ科葉菜類	コナガ アオムシ 慣行薬剤との比較効果	日産化学	● No.7 B					
5	グレースシア乳剤	いちご	アザミウマ類 ハスモンヨトウ オオタバコガ ハダニ類 慣行薬剤との比較効果	日産化学			● No.8 A			
6	ピタイチ	いちご	ハダニ類、アブラムシ 類、アザミウマ類、う どんこ病 新規薬剤の効果確認	協友アグリ		● No.9 A		● No.10 B		
7	トランスフォームフロアブル	いちご	アブラムシ類、 コナジラミ類 の効果・薬害確認	北興化学工業	● No.11 B					
8	トランスフォームフロアブル	かき	カイガラムシ類 の効果・薬害確認	北興化学工業				● No.12 B		

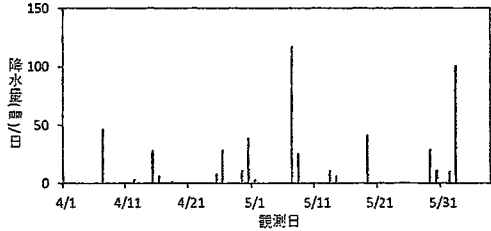
* 殺菌殺虫剤の総合評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：要再検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：1

作物名	水稻	対象病虫害 (効果) (葉害)	紋枯病	農薬名 剤 型	稲大将箱粒剤／スタクトアル モンガレス箱粒剤																		
農産普及課名	湖北農業農村振興事務所農産普及課		担当者名	寺園 康弘																			
設置場所	長浜市上八木町		農家名	前田 和宏																			
耕種概要	品 種： コシヒカリ 土 性： 壤土 定 植： 5月2日 出 穂： 7月26日 開 花： 収 穫： 9月5日 施肥など： 慣行に準ずる																						
展示方法	展示区・対照区面積・(株数)など： 展示区 25 a、対照区 27 a 散布時期・濃度・薬量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>稲大将箱粒剤</td> <td>移植当日</td> <td>育苗箱 1 箱あたり 50g</td> <td>育苗箱の上から均一に散布</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>ルーチンアドスピノ GT箱粒剤</td> <td>移植当日</td> <td>育苗箱 1 箱あたり 50g</td> <td>育苗箱の上から均一に散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法： 調査日 2023年8月9日 調査方法 各区任意の50株、2か所（計100株）について発病株率を調査した。 （展示は及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況） ・ 平年と同程度の病虫害発生状況であった。試験に影響する降雨はなかった。					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	稲大将箱粒剤	移植当日	育苗箱 1 箱あたり 50g	育苗箱の上から均一に散布		対照区	ルーチンアドスピノ GT箱粒剤	移植当日	育苗箱 1 箱あたり 50g	育苗箱の上から均一に散布	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	稲大将箱粒剤	移植当日	育苗箱 1 箱あたり 50g	育苗箱の上から均一に散布																			
対照区	ルーチンアドスピノ GT箱粒剤	移植当日	育苗箱 1 箱あたり 50g	育苗箱の上から均一に散布																			
農家の意見	慣行と同等以上の効果が期待できる。																						

普及上の意見	効果が高く、普及性は高い。											
調査結果	紋枯病発病率											
	<table><tr><td>区分</td><td>農 薬 名</td><td>発病株率（％）</td></tr><tr><td>展示区</td><td>稲大將箱粒剤</td><td>0</td></tr><tr><td>対照区</td><td>ルーチンアドスピノGT箱粒剤</td><td>16</td></tr></table>			区分	農 薬 名	発病株率（％）	展示区	稲大將箱粒剤	0	対照区	ルーチンアドスピノGT箱粒剤	16
	区分	農 薬 名	発病株率（％）									
	展示区	稲大將箱粒剤	0									
対照区	ルーチンアドスピノGT箱粒剤	16										
結果の概要												
紋枯病に対して、対照薬剤に優る効果が認められた。												
葉 害： 特に認められなかった。												
評価	A	今後の問題点	特になし									

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

作物名	小麦	対象病虫害 (効果) (被害)	赤かび病	農薬名 剤 型	ミラビスフロアブル																		
農産普及課名	大津・南部農産普及課		担当者名	柴田 隆豊																			
設置場所	大津市新免		農家名	(農) 新免営農組合																			
耕種概要	品 種：びわほなみ 土 性：砂壤土 は 種：11月10日 出 穂：4月10日 開 花：4月20日 収 穫：6月7日 施肥など：地域慣行に準じた。																						
展示方法	展示区・対照区面積・(株数) など： 展示区35.2a、対照区31.4a 散布時期・濃度・薬量： <table border="1" data-bbox="264 958 1426 1285"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>ミラビスフロアブル</td> <td>開花始期(4/19)</td> <td>2000倍 100L/10a</td> <td>乗用管理機による散布</td> <td>4/27 トップジンM水 和剤 1000倍 5/10 ワークアップ フロアブル 3000倍 それぞれ 100L/10a散布</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>ワークアップフロアブル</td> <td>開花始期(4/19)</td> <td>3000倍 100L/10a</td> <td>乗用管理機による散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法：糊熟期～黄熟期に各区の2か所に調査地点を設け、1か所あたり150穂における発病穂数、発病程度を調査し、発病度を算出した。 (展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況)  図1 出穂後の降水量 (大津アメダス) 薬剤散布後(4/19) および開花期(4/20) 後の4/21-24にかけて降雨が確認されなかったが、それ以後、周期的に降雨があった。					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	ミラビスフロアブル	開花始期(4/19)	2000倍 100L/10a	乗用管理機による散布	4/27 トップジンM水 和剤 1000倍 5/10 ワークアップ フロアブル 3000倍 それぞれ 100L/10a散布	対照区	ワークアップフロアブル	開花始期(4/19)	3000倍 100L/10a	乗用管理機による散布	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	ミラビスフロアブル	開花始期(4/19)	2000倍 100L/10a	乗用管理機による散布	4/27 トップジンM水 和剤 1000倍 5/10 ワークアップ フロアブル 3000倍 それぞれ 100L/10a散布																		
対照区	ワークアップフロアブル	開花始期(4/19)	3000倍 100L/10a	乗用管理機による散布																			
農家の意見	対照のワークアップフロアブルと同等の効果であったため、今後の赤かび病の防除薬剤として期待できる。																						

普及上の意見

これまで小麦の赤かび病防除で利用できる薬剤の系統に偏りがあったが、展示薬剤は既存の系統と異なる薬剤で効果が見込まれるためローテーションの一剤として期待できる。とくに「びわぼなみ」では薬剤による防除回数が増えることが見込まれるため、有効に活用できると考えられる。

調査結果

表1 赤かび病調査結果（5月15日調査）

区名	発病程度				被害度※
	D	C	B	A	
展示区(上)	149	1	0	0	
展示区(下)	149	1	0	0	
平均	149	1	0	0	0.1
対照区(上)	150	0	0	0	
対照区(下)	150	0	0	0	
平均	150	0	0	0	0.0

※被害度の算出方法： $((6A+3B+C)/(6\times \text{調査穂数}))\times 100$
A:2/3以上、B:1/3~2/3、C:1/3以下、D:発病なし

表2 赤かび病調査結果（5月24日調査）

区名	発病程度				被害度※
	D	C	B	A	
展示区(上)	148	2	0	0	
展示区(下)	148	2	0	0	
平均	148	2	0	0	0.2
対照区(上)	147	3	0	0	
対照区(下)	149	1	0	0	
平均	148	2	0	0	0.2

※被害度の算出方法： $((6A+3B+C)/(6\times \text{調査穂数}))\times 100$
A:2/3以上、B:1/3~2/3、C:1/3以下、D:発病なし

薬害：特になし。

評価

B

今後の問題点

特になし。

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：3

作物名	小麦	対象病虫害 (効果) (薬害)	赤かび病	農薬名 剤型	ミラビスフロアブル																		
農産普及課名	東近江農業農村振興事務所 農産普及課		担当者	岡本 繁樹																			
設置場所	東近江市建部堺町		農家名	山田 秀紀																			
耕種概要	品 種：びわほなみ 土 性：砂壌土 は 種：令和4年11月10日 出 穂：令和5年4月9日 開 花：令和5年4月17日 収 穫：令和5年6月13日 施肥など：慣行に準じた 基肥：国産化成肥料14-8-8 30kg/10a、 穂肥①：尿素 10kg/10a (2月中旬) 穂肥②：尿素 10kg/10a (3月中旬) 実肥：硫安 10kg/10a (4月下旬)																						
展示方法	展示区・面積・(株数)など： 展示区 36a (地番645)、対照区 24a (地番649) 散布時期・濃度・薬量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 業 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>ミラビスフロアブル</td> <td>4月18日</td> <td>16倍、0.8L/10a</td> <td>無人航空機 (ドローン)</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>ワークアップフロアブル</td> <td>4月18日</td> <td>16倍、0.8L/10a</td> <td>無人航空機 (ドローン)</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> ※2回目は両区ともにトップジンMゾル (4月27日散布) 3回目は両区ともにワークアップフロアブル (5月21日散布) 調査方法： 5月23日 (黄熟期) に、ほ場から5m程度入った生育が中庸な地点 (上下2地点) から各100穂採取し、以下に従い、発病穂率および発病度を調査した。 ・発病穂率 100穂あたりの赤かび病発病率を目視にて確認する。 ・発病度 100穂あたりの発病度を次式で算出する。 $(\text{発病度}) = ((6A + 3B + C) / 600) * 100$ A：穂の2/3以上発病、B：穂の1/3～2/3発病、 C：穂の1/3以下発病、D：発病なし					区 分	農 業 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考	展示区	ミラビスフロアブル	4月18日	16倍、0.8L/10a	無人航空機 (ドローン)	なし	対照区	ワークアップフロアブル	4月18日	16倍、0.8L/10a	無人航空機 (ドローン)	なし
区 分	農 業 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考																		
展示区	ミラビスフロアブル	4月18日	16倍、0.8L/10a	無人航空機 (ドローン)	なし																		
対照区	ワークアップフロアブル	4月18日	16倍、0.8L/10a	無人航空機 (ドローン)	なし																		
農家の意見	ドローン散布を行ったが、希釈のしやすさや散布時のノズル詰まりは認められず、散布適正に問題はなかった。 赤かび病の防除効果は対照と差は感じなかった。一方で、麦の外観は、対照と比較して、きれいで、ツヤがあるように感じた。																						

普及上の意見

対照薬剤と同等の効果があり、薬害も見られなかったことから地域の薬剤のローテーションに組み込むのに適した薬剤と思われた。

調査結果

調査結果は以下の通りであった。

区	薬剤名	発病程度	調査結果 (穂)		発病穂率 (%)		発病度	
			上	下	上	下	上	下
調査区	ミラピス フロアブル (16倍)	A. 穂の2/3以上発病	0	0	22	22	4	4
		B. 穂の1/3～2/3発病	1	1				
		C. 穂の1/3以下発病	21	21				
		D. 発病せず	78	78				
対照区	ワークアップ フロアブル (16倍)	A. 穂の2/3以上発病	1	0	19	23	4	3.8
		B. 穂の1/3～2/3発病	0	0				
		C. 穂の1/3以下発病	18	23				
		D. 発病せず	81	77				

評価

B

今後の問題点

特になし

評価 A：慣行より優る。B：慣行と同等（効果あり） C：要再検討。D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：4

作物名	小麦	対象病虫害 (効 果) (薬 害)	赤かび病	農薬名 剤 型	ミラビスフロアブル
農産普及課名	湖北農業農村振興事務所 農産普及課	担 当 者	川村容子		
設置場所	米原市新庄	農 家 名	(農)新庄営農組合		

耕 種 概 要	品 種：びわほなみ
	播 種：展示区11月16日・17日、対照区；11月16日
	土 性：壤土（水田） 前作：水稻
	施 肥：（基肥）麦パンチ40kg/10a

展 示 方 法	区 分	農 薬 名	濃度/散布量	散布方法
	展示区 (91.5a)	【防除1回目（4月20日）】 ミラビスフロアブル	16倍 800ml/10a	無人ヘリによる散布
		【防除2回目（4月27日）】 トップジンMゾル	8倍 800ml/10a	
	対照区 (119.6a)	【防除1回目（4月20日）】 ワークアップフロアブル	16倍 800ml/10a	
		【防除2回目（4月27日）】 トップジンMゾル	8倍 800ml/10a	

小麦生育ステージ；出穂期4月12日、開花始期4月18日

調査時期：糊熟期（5月12日、防除2回目22日後）、黄熟期（5月22日、防除2回目32日後）

調査方法：各区とも1区50穂×2カ所（合計100穂）に発生している赤かび病の発病穂率と発病度を調査した。

発病度 = $(6A + 3B + C) / 6 \times \text{調査茎数} \times 100$
A: 穂の2/3以上発病、B: 穂の1/3～2/3以上発病、
C: 穂の1/3以下発病、D: 発病なし

(展示はおよび周辺の病虫害発生状況、降雨状況)

周辺ほ場の赤かび病発生状況；ほ場発生率が高いが、発生程度は低い。

降雨量

雨量データ（観測所；米原市能登瀬、水資源機構設置雨量計データより引用）

農家の意見	特に問題はなかった。					
普及上の意見	展示区の薬剤は高い防除効果があり、赤かび病防除薬剤の選択肢として期待できる。					
調査結果	表1. 調査結果 (5月12日)					
	区分	発病程度	発病穂数 上 下	発病穂率 (%)	発病度	
	展示区	A	0	0	4	1
		B	1	0		
		C	2	1		
		D	47	49		
	対照区	A	0	0	6	2.3
		B	1	3		
		C	1	1		
		D	48	46		
表2. 調査結果 (5月22日)						
区分	発病程度	発病穂数 上 下	発病穂率 (%)	発病度		
展示区	A	1	0	22	5.2	
	B	2	0			
	C	10	9			
	D	37	41			
対照区	A	2	1	40	11.8	
	B	3	5			
	C	16	13			
	D	29	31			
薬害：薬害の発生は両剤とも無かった。						
評価	A	今後の問題点	特になし。			

評価 A：慣行より優る。B：慣行と同等（効果あり） C：要再検討。D：判定不能。

作物名	ホウレンソウ	対象病虫害 (効果) (薬害)	ケナガコナダニ	農薬名 剤 型	ネコナカットフロアブル																		
農産普及課名	大津・南部農産普及課		担当者名	川村 智																			
設置場所	草津市北山田		農家名	中島 栄治																			
耕種概要	品 種： サマースカイ 土 性： 砂壤土 は種又は定植： 4月 13日 出 穂： 開 花： 収 穫： 5月中旬 施肥など： 地域の慣行に準ずる																						
展示方法	展示区・対照区面積・(株数) など： 展示区 1.2a、対照区 1.2a 散布時期・濃度・葉量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>ネコナカットフロアブル</td> <td>4月28日</td> <td>1000倍 166 L/10a</td> <td>動力噴霧器による散布</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>コテツベイト</td> <td>4月28日</td> <td>6kg/10a</td> <td>手振りによる土壌表面散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法： 散布前 (4/28)、7日後 (5/5)、収穫前 (5/19) に被害程度を調査 (20株×2か所) (展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況) ・今年度ケナガコナダニは展示ほや周辺で発生していない					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	ネコナカットフロアブル	4月28日	1000倍 166 L/10a	動力噴霧器による散布		対照区	コテツベイト	4月28日	6kg/10a	手振りによる土壌表面散布	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	ネコナカットフロアブル	4月28日	1000倍 166 L/10a	動力噴霧器による散布																			
対照区	コテツベイト	4月28日	6kg/10a	手振りによる土壌表面散布																			
農家の意見	1000倍希釈で計量がしやすく、臭いもキツくないので散布時にストレスもなく使いやすい 初期の散布の安心感があった。 今回、気温が高い時期での散布であったが、 薬害等の弊害は確認出来なかったもので、そこは安心して今後とも使っていけると考えている																						

普及上の意見	供試薬剤は対照薬剤と比較して、差はみられなかったが、新たな選択肢に加えられたと考えられる。														
調査結果	結果および考察 病害虫の発生状況：ケナガコナダニ：発生なし ケナガコナダニ被害株率 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>散布前</th><th>7日後</th><th>収穫前</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区 (%)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr> <td>対照区 (%)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> *ダニによる被害（食害）株数を各区20株調査 以上より、展示薬剤は、対照区と同等であることが示された。 薬害：なし				散布前	7日後	収穫前	展示区 (%)	0	0	0	対照区 (%)	0	0	0
	散布前	7日後	収穫前												
展示区 (%)	0	0	0												
対照区 (%)	0	0	0												
評価	B	今後の問題点	特になし												

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：6

作物名	ホウレンソウ	対象病虫害 (効果) (薬害)	ケナガコナダニ	農薬名 剤 型	ネコナカット フロアブル																		
農産普及課名	高島農業農村振興事務所 農産普及課	担当者名	深澤 仁																				
設置場所	高島市 鴨	農家名	松田 徹																				
耕種概要	品 種：クロノス 土 性：壤土 は種又は定植：9月25日（展示区）、9月30日（対照区） 収 穫：11月9日 施肥等：慣行に準ずる																						
展示方法	展示区・対照区面積・（株数）など： 展示区 0.7 a、対照区 0.7 a 散布時期・濃度・薬量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>ネコナカット フロアブル</td> <td>10月12日</td> <td>1000倍 150g/10a</td> <td>動力噴霧器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>アフーム乳剤</td> <td>10月13日</td> <td>2000倍 150g/10a</td> <td>動力噴霧器</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法： 処理前、処理後7日後、収穫時に調査を実施。 調査は20株×2か所で行い、中心部4葉（葉長2cm以上）のケナガコナダニによる被害葉を被害程度別に調査して被害程度を算出する。被害程度の基準は、 A：被害なし（指数0） B：ケナガコナダニによる奇形葉2枚以内で褐変なし（指数0.5） C：奇形葉3～4枚で褐変なし（指数3） D：奇形葉の数に関わらず中心葉が褐変し芯止まり（指数5）。 $\text{被害葉} = \sum \frac{\text{被害程度別株数} \times \text{指数}}{\text{全調査株数} \times 5} \times 100$					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	ネコナカット フロアブル	10月12日	1000倍 150g/10a	動力噴霧器		対照区	アフーム乳剤	10月13日	2000倍 150g/10a	動力噴霧器	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	ネコナカット フロアブル	10月12日	1000倍 150g/10a	動力噴霧器																			
対照区	アフーム乳剤	10月13日	2000倍 150g/10a	動力噴霧器																			
農家の意見	ケナガコナダニによる被害はなかった。 次作でも引き続き使用したいと考えている。																						

普及上の意見	対照薬剤と同等以上の効果があり、地域の薬剤のローテーションに組み込むのに適した農薬であると考えられる。																			
調査結果	● ケナガコナダニによる被害葉の調査結果																			
	表：ケナガコナダニによる被害葉																			
	<table><tr><td>区分</td><td>調査日（月/日）</td><td>被害葉（％）</td></tr><tr><td rowspan="3">展示区</td><td>処理前（10/11）</td><td>0</td></tr><tr><td>処理後7日後（10/19）</td><td>0</td></tr><tr><td>収穫時（11/7）</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="3">対照区</td><td>処理前（10/12）</td><td>0</td></tr><tr><td>処理後7日後（10/20）</td><td>0</td></tr><tr><td>収穫時（11/7）</td><td>2</td></tr></table>			区分	調査日（月/日）	被害葉（％）	展示区	処理前（10/11）	0	処理後7日後（10/19）	0	収穫時（11/7）	0	対照区	処理前（10/12）	0	処理後7日後（10/20）	0	収穫時（11/7）	2
	区分	調査日（月/日）	被害葉（％）																	
	展示区	処理前（10/11）	0																	
		処理後7日後（10/19）	0																	
		収穫時（11/7）	0																	
	対照区	処理前（10/12）	0																	
		処理後7日後（10/20）	0																	
		収穫時（11/7）	2																	
● 結果及び考察																				
展示区において、対照区と同等以上にケナガコナダニの発生を抑えることができたと考えられる。																				
薬剤散布は規定量を散布することができた。																				
葉害は認められなかった。																				
評価	B	今後の問題点	特になし																	

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

作物名	ミズナ	対象病虫害 (効果) (薬害)	コナガ	農薬名 剤 型	グレーシア乳剤																		
農産普及課名	大津・南部農産普及課		担当者名	川村 智																			
設置場所	草津市北山田		農家名	中島 栄治																			
耕種概要	品 種： 京かなで 土 性： 砂壤土 は種又は定植： 4月 13日 出 穂： 開 花： 収 穫： 5月上旬 施肥など： 地域の慣行に準ずる																						
展示方法	展示区・対照区面積・(株数) など： 展示区 1.2 a、対照区 1.2 a 散布時期・濃度・薬量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>グレーシア乳剤</td> <td>4月28日</td> <td>3,000倍 (166L/10a)</td> <td>動力噴霧器による散布</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>アフーム乳剤</td> <td>4月28日</td> <td>2,000倍 (166L/10a)</td> <td>動力噴霧器による散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法： 散布前(4/28)、3日後(5/1)、7日後(5/5)に被害株数(幼虫数)を調査(20株×2か所) (展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況) ・降雨によりハウスの谷に水漏れが発生。土壌水分が高いため雑草が生えやすく、アザミウマ類がそこから拡大している					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	グレーシア乳剤	4月28日	3,000倍 (166L/10a)	動力噴霧器による散布		対照区	アフーム乳剤	4月28日	2,000倍 (166L/10a)	動力噴霧器による散布	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	グレーシア乳剤	4月28日	3,000倍 (166L/10a)	動力噴霧器による散布																			
対照区	アフーム乳剤	4月28日	2,000倍 (166L/10a)	動力噴霧器による散布																			
農家の意見	・グレーシア乳剤の作業性について 希釈倍率が3000倍なので多少計量に気を遣う+収穫前1週間前の散布なので、今回のような生育序盤よりかは中盤にかけての散布ローテーションの一角を担ってくれるのではないかと期待している。																						

普及上の意見	対照薬剤区と展示薬剤区でIRACコードが異なり、薬剤ローテーションに組み込みやすく、剤として有望である。														
調査結果	結果および考察 病害虫の発生状況：コナガ：発生なし、アザミウマ類：少発生、病害なし コナガ被害株率 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>散布前</th><th>3日後</th><th>7日後</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区 (%)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr> <td>対照区 (%)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> *幼虫による被害（食害）株数を各区20株調査 以上より、展示薬剤は、対照薬剤と同等であることが示された。 薬 害:なし 参考データ ・5/1調査時のアザミウマ類による被害株率は展示ほ区15%、対照区5%であった				散布前	3日後	7日後	展示区 (%)	0	0	0	対照区 (%)	0	0	0
	散布前	3日後	7日後												
展示区 (%)	0	0	0												
対照区 (%)	0	0	0												
評価	B	今後の問題点	特になし												

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：8

作物名	いちご	対象病害虫 (効 果) (薬 害)	アザミウマ類	農薬名 剤 型	グレースシア乳剤																		
農産普及課名	東近江農業農村振興事務所 農産普及課		担 当 者	井上太一郎																			
設置場所	東近江市小田苅		農 家 名	小林佳紫																			
耕種概要	品 種：かおり野 土 性：少量土壌培地耕（ハウス栽培） 定植 9月23日 収穫 12月24日～ 施肥など：慣行に準じた																						
展示方法	展示区・面積： 展示区 3 a，対照区 3 a 散布時期・濃度・薬量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>グレースシア乳剤</td> <td>4月14日</td> <td>2000倍 200L/10a</td> <td>動噴による散布</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>ベネビアOD</td> <td>4月14日</td> <td>2000倍 200L/10a</td> <td>動噴による散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法： 各区20株×2反復を対象に、アザミウマ類の虫数を調査した。 調査は、散布直前、散布3日後、7日後、14日後に実施した。 （展示ほ及び周辺の病害虫発生状況） 調査期間の4月中～5月上旬までしっかりとした降雨はなかった。 周辺ハウスにおけるアザミウマ類の発生は少～中発生程度であった。					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考	展示区	グレースシア乳剤	4月14日	2000倍 200L/10a	動噴による散布		対照区	ベネビアOD	4月14日	2000倍 200L/10a	動噴による散布	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考																		
展示区	グレースシア乳剤	4月14日	2000倍 200L/10a	動噴による散布																			
対照区	ベネビアOD	4月14日	2000倍 200L/10a	動噴による散布																			
農家の意見	春先においてアザミウマ類の被害が発生する。今回使用した農薬は、従来使用する農薬に比べ効果を感じた。今後は、本剤をアザミウマ類防除の対策に活用したい。																						

普及上の意見	散布後個体数が減少しており対象薬剤と同等以上の効果があった。 また、薬害も見られなかったことから地域の薬剤ローテーションに組み込むのに適した薬剤と考える。																	
調査結果	◎株あたりの虫数 (虫数/株) <table border="1" data-bbox="323 622 991 824"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月14日 散布直前</th> <th>4月17日 3日後</th> <th>4月24日 7日後</th> <th>4月28日 14日後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>1.70</td> <td>0.45</td> <td>0.45</td> <td>0.93</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>1.73</td> <td>1.23</td> <td>1.83</td> <td>1.63</td> </tr> </tbody> </table> 散布直前の株あたりアザミウマ類の発生は上記の表のとおりであった。散布後3日で対照区薬剤、展示区薬剤ともにアザミウマ類個体数は減少した。対照区薬剤は薬剤散布後2週間後にほぼ散布前の密度に回復した。展示区薬剤では薬剤散布後2週間後には散布前密度以下となった。 薬害；なし				4月14日 散布直前	4月17日 3日後	4月24日 7日後	4月28日 14日後	展示区	1.70	0.45	0.45	0.93	対照区	1.73	1.23	1.83	1.63
	4月14日 散布直前	4月17日 3日後	4月24日 7日後	4月28日 14日後														
展示区	1.70	0.45	0.45	0.93														
対照区	1.73	1.23	1.83	1.63														
評価	A	今後の問題点	特になし															

評価 A：慣行より優る。B：慣行と同等（効果あり） C：要再検討。D：判定不能。

作物名	いちご	対象病虫害 (効果) (被害)	ハダニ類・うどんこ病	農薬名 剤 型	ピタイチ																		
農産普及課名	甲賀農業農村振興事務所農産普及課		担当者名	中村 祐貴																			
設置場所	水口町北脇		農家名	る・シオールファーム																			
耕種概要	品 種：紅ほっぺ 土 性：少量土壌培地耕（ハウス栽培） は種又は定植： 9月21日定植 出 穂： 開 花： 10月30日頃 収 穫： 施肥など： 地域慣行に準じる（OKF-1）																						
展示方法	展示区・対照区面積・（株数）など： 展示区 375 m²、対照区 495 m² 散布時期・濃度・薬量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>農 薬 名</th><th>散布時期</th><th>濃度/散布量</th><th>散布方法</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td><td>ピタイチ</td><td>10月13日 10月19日</td><td>500倍 100L/10a</td><td>動力散布機による 散布</td><td></td></tr> <tr> <td>対照区</td><td>アカリタッチ乳剤</td><td>10月13日 10月19日</td><td>1000倍 100L/10a</td><td>動力散布機による 散布</td><td></td></tr> </tbody> </table> 調査方法： それぞれ任意の10葉×2箇所において、目視によりハダニ類の寄生虫数、うどんこ病の発病葉数を確認する。 調査は、薬剤散布前、薬剤散布後（2～3回）に実施する。 （展示は及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況） ハダニの他、コナジラミが多発しており、コナジラミ類対策として、ディアナSCを10/21に散布。					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	ピタイチ	10月13日 10月19日	500倍 100L/10a	動力散布機による 散布		対照区	アカリタッチ乳剤	10月13日 10月19日	1000倍 100L/10a	動力散布機による 散布	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	ピタイチ	10月13日 10月19日	500倍 100L/10a	動力散布機による 散布																			
対照区	アカリタッチ乳剤	10月13日 10月19日	1000倍 100L/10a	動力散布機による 散布																			
農家の意見	慣行剤と比較して同等以上の効果と感じた。 薬害もなく、殺卵効果があるとのことから今後使用する薬剤として検討したい。																						

普及上の意見	対照剤と比較して、同等以上の殺ダニ効果が認められた。 今後、本圃定植後の防除薬剤の一つとして有望である。																																
調査結果	1 葉あたりハダニ数の推移 <table><tr><td></td><td>散布前日 (10/12)</td><td>1回目散布3日後 (10/16)</td><td>1回目散布7日後 2回目散布1日後 (10/20)</td><td>1回目散布11日後 2回目散布5日後 (10/24)</td></tr><tr><td>展示区</td><td>0.4</td><td>0.2</td><td>0.05</td><td>0</td></tr><tr><td>対照区</td><td>0.6</td><td>0.35</td><td>0.1</td><td>0</td></tr></table> 1 葉あたりうどんこ病発生程度の推移 <table><tr><td></td><td>散布前日 (10/12)</td><td>1回目散布3日後 (10/16)</td><td>1回目散布7日後 2回目散布1日後 (10/20)</td><td>1回目散布11日後 2回目散布5日後 (10/24)</td></tr><tr><td>展示区</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td></tr><tr><td>対照区</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td></tr></table> ・ほ場内でのハダニの発生が認められたことから5日間隔での2回連続散布により展示した。 ・展示薬剤は、対照薬剤と比較して1回目散布直後は殺ダニ効果が高い傾向が見られた。 ・うどんこ病に対する効果は、展示薬剤、対照薬剤とも同等の効果が認められた。 ・連続散布でも葉害の発生はなく、同等以上の殺ダニ効果が認められた。 薬 害： 1回目散布、2回目散布後とも葉害・汚れともに認められなかった。				散布前日 (10/12)	1回目散布3日後 (10/16)	1回目散布7日後 2回目散布1日後 (10/20)	1回目散布11日後 2回目散布5日後 (10/24)	展示区	0.4	0.2	0.05	0	対照区	0.6	0.35	0.1	0		散布前日 (10/12)	1回目散布3日後 (10/16)	1回目散布7日後 2回目散布1日後 (10/20)	1回目散布11日後 2回目散布5日後 (10/24)	展示区	無	無	無	無	対照区	無	無	無	無
	散布前日 (10/12)	1回目散布3日後 (10/16)	1回目散布7日後 2回目散布1日後 (10/20)	1回目散布11日後 2回目散布5日後 (10/24)																													
展示区	0.4	0.2	0.05	0																													
対照区	0.6	0.35	0.1	0																													
	散布前日 (10/12)	1回目散布3日後 (10/16)	1回目散布7日後 2回目散布1日後 (10/20)	1回目散布11日後 2回目散布5日後 (10/24)																													
展示区	無	無	無	無																													
対照区	無	無	無	無																													
評価	A	今後の問題点	なし																														

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

作物名	イチゴ	対象病虫害 (効果) (薬害)	ハダニ類、うどんこ病	農薬名 剤 型	ピタイチ																															
農産普及課名	湖東農業農村振興事務所 農産普及課		担当者名	近藤由紀子																																
設置場所	犬上郡甲良町長寺		農家名	宮崎次郎																																
耕種概要	品 種 : 章姫 土 性 : (購入培土) 定植 : 6月22日 出 穂 : - 開 花 : - 収 穫 : - 施肥など: 慣行の栽培に準ずる																																			
展示方法	展示区・対照区面積・(株数) など: 展示面積300m ² (育苗) 散布時期・濃度・薬量: <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>ピタイチ</td> <td>8/21、8/28</td> <td>500倍/200g/10a</td> <td rowspan="2">動力噴霧器による 散布</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">対照区</td> <td>カネマイトフロアブル</td> <td rowspan="2">8/21</td> <td rowspan="2">1000倍/200g/10a</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベルコート水和剤</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法: ○ハダニ類 調査方法: 虫数 (調査葉数任意の10葉×2か所) 調査日 : 散布当日、散布3日後、散布7日後 ○うどんこ病 調査方法: 発病葉数および発病程度 (調査前後の摘葉数) 調査日 : 散布前 (散布当日)、散布7日後、散布14日後 (展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況) ・展示区および対照区ともに、ハダニ類およびうどんこ病の発生はなかった。 ・調査開始時に試験区に隣接するベッドの一部でアブラムシ類が発生していたが、対照区調査終了後 (展示区調査中) に対照区に拡大したため、対照区のみアブラムシ類のみに有効な薬剤を下記の通り散布した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対照区</td> <td>モスピラン顆粒水溶剤</td> <td>9/4 (調査後)</td> <td>2000倍</td> <td>動力噴霧器による散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	ピタイチ	8/21、8/28	500倍/200g/10a	動力噴霧器による 散布		対照区	カネマイトフロアブル	8/21	1000倍/200g/10a		ベルコート水和剤		区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	対照区	モスピラン顆粒水溶剤	9/4 (調査後)	2000倍	動力噴霧器による散布	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																															
展示区	ピタイチ	8/21、8/28	500倍/200g/10a	動力噴霧器による 散布																																
対照区	カネマイトフロアブル	8/21	1000倍/200g/10a																																	
	ベルコート水和剤																																			
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																															
対照区	モスピラン顆粒水溶剤	9/4 (調査後)	2000倍	動力噴霧器による散布																																
農家の意見	・薬害の発生はなかった。 ・これまで気門封鎖剤はべたつくので避けていたが、ピタイチはあまりべたつかなかった。 ・むしろ、水和剤よりも汚れが少ないので、収穫時期にも使用できると感じた。 ・試験ほ場では、ハダニ類、アブラムシ類への化学農薬の効果が低下している。 抵抗性獲得が考えられるので、ピタイチのような気門封鎖剤を活用していきたい。																																			

普及上の意見	・ハダニ類、うどんこ病は発生がなく、効果が確認できなかった。葉害の発生は認められなかった。 ・気門封鎖剤特有のべたつきが少ない。この点について、すでに使用している農家からも評価が高い。																																			
調査結果	対象病害虫についての結果は表1、2の通りであった。 展示区では、薬剤散布を2回（8月21日、8月28日）行い、対照区では1回（8月21日）行った。 表1. ハダニ類調査結果（匹/葉）																																			
	<table><tr><td rowspan="4">区分</td><td colspan="5">調査日</td></tr><tr><td>散布前</td><td>散布3日後</td><td>散布7日後</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>散布前</td><td>散布3日後</td><td>散布7日後</td></tr><tr><td>8月21日</td><td>8月24日</td><td>8月28日</td><td>8月31日</td><td>9月4日</td></tr><tr><td>展示区</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>対照区</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>			区分	調査日					散布前	散布3日後	散布7日後					散布前	散布3日後	散布7日後	8月21日	8月24日	8月28日	8月31日	9月4日	展示区	0	0	0	0	0	対照区	0	0	0	0	0
	区分	調査日																																		
		散布前	散布3日後		散布7日後																															
					散布前	散布3日後	散布7日後																													
		8月21日	8月24日	8月28日	8月31日	9月4日																														
	展示区	0	0	0	0	0																														
	対照区	0	0	0	0	0																														
	表2. うどんこ病調査結果（発病葉数）																																			
	<table><tr><td rowspan="4">区分</td><td colspan="4">調査日</td></tr><tr><td>散布前</td><td>散布7日後</td><td>散布14日後</td><td></td></tr><tr><td></td><td>散布前</td><td>散布7日後</td><td>散布14日後</td></tr><tr><td>8月21日</td><td>8月28日</td><td>9月4日</td><td>9月11日</td></tr><tr><td>展示区</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>対照区</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>			区分	調査日				散布前	散布7日後	散布14日後			散布前	散布7日後	散布14日後	8月21日	8月28日	9月4日	9月11日	展示区	0	0	0	0	対照区	0	0	0	0						
区分	調査日																																			
	散布前	散布7日後	散布14日後																																	
		散布前	散布7日後		散布14日後																															
	8月21日	8月28日	9月4日	9月11日																																
展示区	0	0	0	0																																
対照区	0	0	0	0																																
葉 害：発生は認められなかった。																																				
評価	B	今後の問題点	特になし																																	

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

作物名	イチゴ	対象病虫害 (効果) (被害)	アブラムシ類	農薬名 剤 型	トランスフォーム フロアブル																		
農産普及課名	大津・南部農産普及課		担当者名	大崎 向日葵																			
設置場所	大津市月輪		農家名	小林 涼介																			
耕 種 概 要	品 種：章姫 土 性：購入培土（揖斐川工業株式会社） は種又は定植： 6 月 17 日 出 蕾：11月7日時点、未出蕾 開 花：- 収 穫：- 施肥など：液体肥料（OK-F-1（OATアグリオ株式会社））																						
展 示 方 法	展示区・対照区面積・（株数）など： 展示区 4a、対照区 4a 散布時期・濃度・薬量： <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>トランスフォーム フロアブル</td> <td>6月23日</td> <td>2,000倍 125 L/10a</td> <td>動力噴霧器 による散布</td> <td>展着剤 (スカッシュ) を混用</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>コルト顆粒水和剤</td> <td>6月23日</td> <td>3,000倍 112.5 L/10a</td> <td>動力噴霧器 による散布</td> <td>展着剤 (スカッシュ) を混用</td> </tr> </tbody> </table> 調査方法： 虫数を任意の10葉×2ヵ所、計20葉を計測した。 調査する葉は、展開第3葉の中央の葉とした。 調査は、以下の3回実施した。 1. 散布前日 2. 散布3日後 3. 散布7日後 （展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況） 6月21日、26日時点でハダニ類の少発生があった。 6月27日に、ハダニ類防除のため、カネマイトフロアブルを散布した。					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	トランスフォーム フロアブル	6月23日	2,000倍 125 L/10a	動力噴霧器 による散布	展着剤 (スカッシュ) を混用	対照区	コルト顆粒水和剤	6月23日	3,000倍 112.5 L/10a	動力噴霧器 による散布	展着剤 (スカッシュ) を混用
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	トランスフォーム フロアブル	6月23日	2,000倍 125 L/10a	動力噴霧器 による散布	展着剤 (スカッシュ) を混用																		
対照区	コルト顆粒水和剤	6月23日	3,000倍 112.5 L/10a	動力噴霧器 による散布	展着剤 (スカッシュ) を混用																		
農 家 の 意 見	・薬害もなく、使いやすい薬剤であった。 ・7月20日頃から再度アブラムシ類が発生し始めた。4週間近く効果があり、薬剤効果の持続性についても満足している。 ・ミツバチへの影響がある剤なので、親株生育期の防除体系に取り入れたい。																						

普及上の意見	・ 薬剤効果を調査したが、十分な効果が認められた。 ・ 速効性、残効性についても慣行と同等の効果があり、ミツバチを放飼するまでの期間において、有効な薬剤であると考えられる。																							
調査結果	・ 発生虫数の調査結果は、表1のとおり。 ・ 散布前は、両区において、平均0.7～0.8頭/葉の発生があった。 ・ 両区ともに、散布3日後、7日後には発生はみられなかった。 表1. アブラムシ類の発生虫数（頭/葉） <table><thead><tr><th>調査日</th><th>調査区</th><th>平均</th></tr></thead><tbody><tr><td>6月21日</td><td>展示区</td><td>0.8</td></tr><tr><td>（散布前日）</td><td>対照区</td><td>0.7</td></tr><tr><td>6月26日</td><td>展示区</td><td>0</td></tr><tr><td>（散布3日後）</td><td>対照区</td><td>0</td></tr><tr><td>6月30日</td><td>展示区</td><td>0</td></tr><tr><td>（散布7日後）</td><td>対照区</td><td>0</td></tr></tbody></table> 薬 害： なし			調査日	調査区	平均	6月21日	展示区	0.8	（散布前日）	対照区	0.7	6月26日	展示区	0	（散布3日後）	対照区	0	6月30日	展示区	0	（散布7日後）	対照区	0
調査日	調査区	平均																						
6月21日	展示区	0.8																						
（散布前日）	対照区	0.7																						
6月26日	展示区	0																						
（散布3日後）	対照区	0																						
6月30日	展示区	0																						
（散布7日後）	対照区	0																						
評価	B	今後の問題点	特になし。																					

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

作物名	かき（富有）	対象病虫害 （効果）（被害）	カイガラムシ類	農薬名 剤 型	トランスフォーム フロアブル																		
農産普及課名	湖東農業農村振興事務所農産普及課		担当者名	河津 円																			
設置場所	彦根市石寺町		農家名	伊吹 寿郎																			
耕種概要	品 種： 富有柿 土 性： 壤土 は種又は定植： 月 日 出 穂： 開 花： 収 穫： 11月6日頃～ 施肥など： 地域慣行に準ずる																						
展示方法	展示区・対照区面積・（株数）など： 展示区 10 a、対照区 10 a 散布時期・濃度・葉量： <table border="1" data-bbox="280 949 1404 1191"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>トランスフォームフロアブル</td> <td>6月5日</td> <td>2000倍 300g/10a</td> <td>動力噴霧器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>モスピラン顆粒水溶剤</td> <td>6月5日</td> <td>4000倍 300g/10a</td> <td>動力噴霧器</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 調査方法： 試験樹として各区2本を設置。 各区において収穫果100個（試験樹2本×果実50個）に対し、カイガラムシ類の被害があるかどうかを確認した。 参考までに農薬散布後3週間時点でも発生状況を確認した。 （展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況） - 調査樹設定の際（5月16日）にはカイガラムシ類が寄生しているか否かを確認済。 - 発生している枝に目印をつけた。 - 農家からの聞き取りで摘蕾時（6月上旬）にはカイガラムシが枝からへたへ移動しているのを確認したとのこと。 - 摘果作業時点でも発生を確認している。 - 調査実施ほ場における今年度のカイガラムシ類は少発生であった - 農薬散布時に一度印をつけた枝の周囲を調査したが、カイガラムシ類は確認できなかった。					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	トランスフォームフロアブル	6月5日	2000倍 300g/10a	動力噴霧器		対照区	モスピラン顆粒水溶剤	6月5日	4000倍 300g/10a	動力噴霧器	
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	トランスフォームフロアブル	6月5日	2000倍 300g/10a	動力噴霧器																			
対照区	モスピラン顆粒水溶剤	6月5日	4000倍 300g/10a	動力噴霧器																			
農家の意見	対照区のモスピランは粉のため、調合の際になかなか溶けず苦勞する部分もあったが、今回試験的に用いたトランスフォームフロアブルは液剤のため使いやすかった。																						

普及上の意見	・調査結果から対照区、展示区でカイガラムシ類の被害程度に差はなかった。使用するに問題はないと考えられる。 ・液剤のため、対照区の剤と比べると調整の際にわずかではあるが軽労化に繋がる。 ・カキにおいてはカイガラムシ類のみの登録のため、基幹防除の剤というよりはカイガラムシ類が多発するほ場における追加防除の剤として候補が挙がるのではないか。																																												
調査結果	表1 カイガラムシ類の被害について（6/26） <table border="1" data-bbox="327 533 852 873"> <tr> <th rowspan="2">区</th><th>調査日</th><th colspan="2">6月26日</th></tr> <tr> <th>調査樹</th><th>調査果（個）</th><th>被害果（個）</th></tr> <tr> <td rowspan="2">展示区</td><td>A</td><td>50</td><td>0</td></tr> <tr> <td>B</td><td>50</td><td>0</td></tr> <tr> <td rowspan="2">対照区</td><td>A</td><td>50</td><td>0</td></tr> <tr> <td>B</td><td>50</td><td>0</td></tr> </table> 表2 カイガラムシ類の被害について（11/9） <table border="1" data-bbox="327 929 852 1270"> <tr> <th rowspan="2">区</th><th>調査日</th><th colspan="2">11月9日</th></tr> <tr> <th>調査樹</th><th>調査果（個）</th><th>被害果（個）</th></tr> <tr> <td rowspan="2">展示区</td><td>A</td><td>50</td><td>1</td></tr> <tr> <td>B</td><td>50</td><td>0</td></tr> <tr> <td rowspan="2">対照区</td><td>A</td><td>50</td><td>2</td></tr> <tr> <td>B</td><td>50</td><td>0</td></tr> </table> ・両区とも目立ったカイガラムシ類の被害は確認されなかった。 （参考） 各区の試験樹において果実（各区100個程度）および周囲の葉を調査したが、カイガラムシ類は確認されなかった。 薬害： 特になし			区	調査日	6月26日		調査樹	調査果（個）	被害果（個）	展示区	A	50	0	B	50	0	対照区	A	50	0	B	50	0	区	調査日	11月9日		調査樹	調査果（個）	被害果（個）	展示区	A	50	1	B	50	0	対照区	A	50	2	B	50	0
区	調査日	6月26日																																											
	調査樹	調査果（個）	被害果（個）																																										
展示区	A	50	0																																										
	B	50	0																																										
対照区	A	50	0																																										
	B	50	0																																										
区	調査日	11月9日																																											
	調査樹	調査果（個）	被害果（個）																																										
展示区	A	50	1																																										
	B	50	0																																										
対照区	A	50	2																																										
	B	50	0																																										
評価	B	今後の問題点	特になし																																										

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

令和5年度 除草剤展示ほ(技術確認圃) 設置計画一覧表

剤の 番号	商品名	処理方法	試験のねらい 薬剤の特徴など	委託会社名	設置場所(設置No.)						
					大津 南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	革新
1	シンガ [®] キジャンボ [®]	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後～ノビエ3 葉期処理)としての技術実証	(クミアイ化学工業)	● No.13 A	● No.14 A	● No.15 A				
2	シンガ [®] キ1キロ粒剤	水稲 一発処理	一発処理剤(移植時、移植直後～ ノビエ3葉期処理)としての技術 実証	(クミアイ化学工業)						● No.16 B	
3	イネリーガ [®] 1キロ粒剤	水稲 一発処理	田植同時処理での技術実証 一発処理剤(移植直後～ノビエ3 葉期)としての技術実証 無人航空機による散布での技術実 証	(パイエルクロップサイ エンス)						● No.17 A	
4	カラットジ [®] ジャンボ [®] / キラリジ [®] ジャンボ [®]	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後～ノビエ2.5 葉期まで)としての技術実証。	(日本農薬 *協友アグリ)	● No.18 —			● No.19 A			
5	カラット400FG/ キラリ400FG	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後～ノビエ2.5 葉期まで)としての技術実証。	(日本農薬 *協友アグリ)			● No.20 A				
6	カラット400FG/ キラリ400FG ドローン散布	水稲 一発処理	ドローン散布による一発処理剤 (移植直後～ノビエ2.5葉期まで) としての技術実証。	(日本農薬 *協友アグリ)				● No.21 A			
7	カラット1キロ粒剤/ キラリ1キロ粒剤 (田植同時)	水稲 一発処理	田植同時処理での技術実証。	(日本農薬 *協友アグリ)						● No.22 A	
8	ラオウジ [®] ジャンボ [®]	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後～ノビエ 2.5葉期処理)としての技術実証	(クミアイ化学工業)	● No.23 A	● No.24 A					
9	ラオウ1キロ粒剤	水稲 一発処理	一発処理剤(移植時、移植直後～ ノビエ2.5葉期処理)としての技 術実証	(クミアイ化学工業)						● No.25 A	
* A:除草効果・葉害の面で普及上特に問題はない。 B:普及にあたって更に検討する必要がある。 —:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)。											

No.13 (移植)
薬剤名 シンゲキジャンボ
県名 滋賀県

作物 移植水稻
実施場所 大津・南部農産普及課(野洲市比留田)
農家名 重高 秀志
区分 一発処理
担当者名 和田 真歩

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植面積・葉齢	中干
確認圃 32.9 a	85.7m	壤土	コンクリ 畔塗なし	コシヒカリ	早期	育苗移植栽培	2023年 4月27日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.5 L	+45~57 (6日間)
慣行 30.8 a	85.7m	壤土	コンクリ 畔塗なし	コシヒカリ	早期	育苗移植栽培	2023年 4月27日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.5 L	+45~57 (6日間)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/10a	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	シンゲキジャンボ 10個(250g)	4月29日 (+1)	畦畔から投入	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	流星1キロ粒剤 1kg	4月28日 (+0)	田植同時散布	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6月12日 (+45日)		被害		評点
	ノビ エ	カヤ リグサ 類	一年生広葉				ホタル イ	多年生雑草				総計 下記14箇行区計	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					0					0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0					0					0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度):【確認圃】未発生 【慣行】ヒメミソハギ:0.2g/m ² 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 散布時間:10分 散布人数:1人 慣行の除草剤と比較して、十分な除草効果があった。														

No.14 (移植)
薬剤名 シンゲキジャンボ
県名 滋賀県

作物 移植水稻
実施場所 甲賀農産普及課(湖南市岩根)
農家名 (有)ティアイケイ農産
区分 一発処理
担当者名 池原紫乃

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植面積・葉齢	中干
確認圃 30 a	140m	壤土	土畦畔 畔塗あり	山田錦	早植	育苗機械移植	2023年 5月8日	2023年 5月10日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+47~56 (5日間)
慣行 30 a	140m	壤土	土畦畔 畔塗あり	山田錦	早植	育苗機械移植	2023年 5月8日	2023年 5月10日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+47~56 (5日間)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/10a	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	シンゲキジャンボ 10個(250g)	5月15日 (+5)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ジェイソウルジャンボ 10個(450g)	5月15日 (+5)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6月21日 (+42日)		被害		評点
	ノビ エ	カヤ リグサ 類	コナ ギ				ホタル イ					総計 下記14箇行区計	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0	0				0.4					0.4 (6%)	無	100%	A
慣行	0	0	0				6.8					6.8 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ノビエ:76g/m ² ホタルイ:394g/m ² コナギ:7g/m ² 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 特記事項:散布準備時間:約5分、散布時間:約5~10分/30a、散布人数:1人 深水で長期間管理されており、そのことによる抑草効果も考えられる。 入水口付近を中心にホタルイ、一部コナギが散見された。														

No.15 (移植)
薬剤名 シンゲキジャンボ
県名 滋賀県

作物 移植水稻 区分 一発処理
実施場所 東近江農産普及課 (近江八幡市西生来町)
農家名 西生来農組 担当者名 大橋 哲哉

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植面草丈・葉齢	中干
確認圃 12.2a	60m	グライ土	土畦畔 畔塗あり	日本晴	普通期	稚苗移植栽培	2023年 5月14日	2023年 5月15日	0.5 cm/日	12.5 cm 2.6 L	+40~50 (5日間)
慣行 10a	60m	グライ土	土畦畔 畔塗あり	日本晴	普通期	稚苗移植栽培	2023年 5月14日	2023年 5月15日	1.5 cm/日	12.5 cm 2.6 L	+40~50 (5日間)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	シンゲキジャンボ 10個(250g)	5月22日 (+7)	畦畔から投入 7.0cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	キマリテジャンボ 10個(300g)	5月22日 (+7)	畦畔から投入 6.5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 7月6日 (+45)		薬害		評点
	ノビエ	カヤツリグサ類	一年生広葉				ホタルイ	多年生雑草				総計 下記0は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					0	0	3.2			3.2 (19%)	無	100%	A
慣行	0	0					0	5.7	11.1			16.8 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度):未発生 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): ○散布準備時間:5分 散布時間:10分 散布人数:1人 ほ場全面でも雑草の発生がほとんどなく、除草効果の高い薬剤であった。														

No.16 (移植)
薬剤名 シンゲキ1キロ粒剤
県名 滋賀県

作物 移植水稻 区分 一発処理
実施場所 高島 農産普及課(高島市安曇川町横江字東海渡)
農家名 梅村 廣毅 担当者名 三木 幸次

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植面草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	稚苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)
慣行 10 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	稚苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	シンゲキ1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	ロイヤント乳剤 200mL(100L)	7月7日 (+41)	動力噴霧機 2cm	幼穂形成期	オモダカ・草丈40~50cm、多
	処理 3回目		残草調査後 処理			
慣行	処理 1回目	カウシルコンブリー1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 7月6日 (+40)		薬害		評点
	ノビエ	カヤツリグサ類	一年生広葉				ホタルイ	多年生雑草				総計 下記0は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					8.2	289.6				297.8 (一%)	無	100%	B
慣行	0	0					0	0				0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ※確認圃・無処理区(コナギ) 慣行圃・無処理区(アゼナ、オモダカ、コナギ) ※畦畔沿いにおける発生草種(イボクサ、セリ、ノビエ) 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行薬剤と比較して、処理時の取り扱いには問題がなかったが、ほ場全体にオモダカが非常に多く残った。【後期剤にて対応】 【確認圃における残草の状況】(オモダカ)草丈40~50cm、12株/m ² (ホタルイ)草丈10~20cm、8株/m ²														

No.17 (移植)
薬剤名 イネリーグ1キロ粒剤
県名 滋賀県

作物 移植水稻
実施場所 高島農産普及課(高島市安曇川町横江宇東海渡)
農家名 梅村 廣毅
区分 一発処理
担当者名 三木 幸次

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	育苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)
慣行 10 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	育苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水塩)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	イネリーグ1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	カウンスルコンプリート1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 7月6日 (+40)				薬害		評点	
	ノビ エ	カヤツ リグサ 類	一年生広葉			ホタル イ	多年生雑草			オモ ダカ	総計 下段は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0				0	0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0				0				0	0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ※確認圃・無処理区(発生なし) 慣行圃・無処理区(アゼナ、オモダカ、コナギ) ※畦畔沿いにおける発生草種(イボクサ、セリ、ノビエ) 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行薬剤と比較して、処理時の取り扱いには問題はなく、効果も同等であった。													

No.18
薬剤名 カラット/キラリジャンボ
県名 滋賀県

作物 移植水稻
実施場所 大津・南部農産普及課(野洲市高木)
農家名 田中 清蔵
区分 一発処理
担当者名 大崎 向日葵

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 34.8 a	90.3m	埴壤土	土畦畔 畔塗あり	日本晴	普通期	育苗移植栽培	2023年 5月6日	2023年 5月8日	0.5 cm/日	12 cm 2.5 L	+49~63 (10日間)
慣行 29.9 a	90.4m	埴壤土	土畦畔 畔塗あり	日本晴	普通期	育苗移植栽培	2023年 5月6日	2023年 5月8日	0.5 cm/日	12 cm 2.5 L	+49~63 (10日間)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水塩)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	カラット/キラリジャンボ 10個(400g)	5月8日 (+0)	畦畔から投入 水深8cm	12cm 2.5L	藻:多発生、ホタルイ:4L 多発生
	処理 2回目	〔バサグラン液剤 700 mL(100L)〕	6月16日 (+39)	乗用管理機 水深5cm	32cm 4L	
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	カネツグ1キロ粒剤 1kg	5月8日 (+0)	移植機同時散布 水深5cm	12cm 2.5L	ホタルイ:4L 少発生、アゼナ:20cm 少発生
	処理 2回目	〔バサグラン液剤 700 mL(100L)〕	6月16日 (+39)	乗用管理機 水深5cm	32cm 4L	
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6月7日(+30日)		薬害		評点
	ノビエ	カタクリグサ類	一年生広葉			ホタルイ	藻類	イヌタデ	多年生雑草			総計 下段には慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃						28.5	25.9	0				54.4 (870%)	無	—	—
慣行						5.5	0	0.8				6.3 (100%)	無	—	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度):【確認圃】ホタルイ: 10.4 g/m ²														
	【慣行】ホタルイ: 6.4 g/m ² 、ノビエ: 9.2 g/m ² 、アゼナ: 35.6 g/m ²														
処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 薬剤散布後に確認圃においてホタルイおよび藻類の発生が多く見られた。その後圃場の確認を行ったところ、確認圃の水尻付近より漏水していることが判明した。このことから漏水により薬剤が効果を発揮する前に流出した可能性が大きく、効果の確認ができなかったものと思われる。															

No.19

(移植)

薬剤名 カラット/キラリジャンボ
県名 滋賀県作物 移植水稻
実施場所 湖東農産普及課(彦根市田附町)
農家名 柴田 明宏

区分 一発処理

担当者名 長瀬 朱理

圃場/面積	標高(m)	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植草丈・葉齢	中干
確認圃 28.9 a	85.2	シルト質粘壤土	土畦畔 畔塗あり	レーク65	普通期	稚苗移植栽培	2023年 4月27日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.7 L	+38~52 (10日間)
慣行 27.5 a	85.2	シルト質粘壤土	土畦畔 畔塗あり	レーク65	普通期	稚苗移植栽培	2023年 4月26日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.7 L	+38~52 (10日間)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/10a	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	カラット/キラリジャンボ 10個(400g)	5月3日 (+5)	畦畔からの投入 5cm	2.7L	発生なし
	処理 2回目					
慣行	処理 1回目	ウルティモZジャンボ 10個(350g)	5月3日 (+5)	畦畔からの投入 5cm	2.7L	発生なし
	処理 2回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6/12(+46)		薬害		評点
	ノビエ	カタリ グサ類	一年生広葉				ホタル イ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					0					0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0					0.2					0.2 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):

薬が微発生

処理時の状況及び所感(特記事項等含む):

○処理時の状況等

散布準備時間:1分、散布時間3分、散布人数:1人。散布時はほぼ無風(平均風速2m/s:気象庁データ)。

○特記事項

慣行は場で薬がほ場の8割を占めていた。カラット/キラリの確認は場で薬は発生していなかった。

慣行は場でホタルイが少し残った。残ったホタルイはいずれも花茎抽出期の大株だった。

処理4日後の5月7日に大雨と強風によるオーバーフローがあったが、確認は場に残草はなく、除草効果は高かった。

無処理区で雑草が発生しなかったことは、5月7日の大雨と強風によるオーバーフローが影響したと考えられる。

○担当農家からの意見

散布した4日後に荒天となったが、薬効はしっかり現れており、残効もしっかりあったと思う。例年ホタルイに悩まされていたが、現時点で甚大な取り

こぼしはないように思う。また、慣行は場と比較した場合、薬類・アオミドロによる表層剥離に対する効果もあったように思えた。

確認は場の方が残効性が高く、効果的な農薬だと思った。

No.20

(移植)

薬剤名 カラット400FG/キラリ400FG
県名 滋賀県作物 移植水稻
実施場所 東近江農産普及課(近江八幡市西生来町)
農家名 西生来富農組合

区分 一発処理

担当者名 大橋 哲哉

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植草丈・葉齢	中干
確認圃 21.1 a	60m	グライ土	土畦畔 畔塗あり	日本晴	普通期	稚苗移植栽培	2023年 5月14日	2023年 5月15日	0.5 cm/日	12.5 cm 2.6 L	+40~50 (5日間)
慣行 10.0 a	60m	グライ土	土畦畔 畔塗あり	日本晴	普通期	稚苗移植栽培	2023年 5月14日	2023年 5月15日	1.5 cm/日	12.5 cm 2.6 L	+40~50 (5日間)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/10a	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	カラット400FG/キラリ400FG 400g	5月22日 (+7)	周縁部に手散布 7.0cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	キマリテジャンボ 10個(300g)	5月22日 (+7)	畦畔から投入 6.5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 7月6日(+45)		薬害		評点
	ノビエ	カタリ グサ類	一年生広葉				ホタル イ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					0	0	0			0.0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0					0	5.7	11.1			16.8 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):確認圃、慣行とも未発生。

処理時の状況及び所感(特記事項等含む):

○散布準備時間:5分 散布時間:10分 散布人数:1人

ほ場全面でも雑草の発生がほとんどなく、除草効果の高い薬剤であった。

No.21 (移植)

薬剤名 カラット/キラリ400FG
県名 滋賀県作物 移植水稻
実施場所 湖東農産普及課(彦根市田附町)
農家名 柴田 明宏

区分 一発処理

担当者名 長瀬 朱理

圃場/面積	標高(m)	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 28.3 a	85.2	シルト微硬壤土	土畦畔 畔塗あり	レーク65	普通期	稚苗移植栽培	2023年 4月27日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.7 L	+38~52 (10日間)
慣行 27.5 a	85.2	シルト微硬壤土	土畦畔 畔塗あり	レーク65	普通期	稚苗移植栽培	2023年 4月26日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.7 L	+38~52 (10日間)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理1回目	カラット/キラリ400FG 400g	5月3日 (+5)	ドローンによる散布 6cm	2.7L	発生なし
	処理2回目					
慣行	処理1回目	ウルディモ2ジャンボ 10個(350g)	5月3日 (+5)	畦畔からの投入 5cm	2.7L	発生なし
	処理2回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 6/12(+46)				被害		評点	
	ノビエ	カタリクサ類	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草				総計 下段①は慣行比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0					0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0				0.2					0.2 (100%)	無	100%	

備考	無処理区での発生雑草(発生程度): 未発生													
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): ○処理時の状況等 散布準備時間:5分、散布時間2分、散布人数:1人 散布時はほぼ無風(平均風速2m/s:気象庁データ) 使用ドローン:DJI社 MG-1P シャッター開度:80% ドローン回転数:約500回転。 ○特記事項 慣行圃場で草がほ場の8割を占めていたが、確認圃では草は発生していなかった。 慣行圃場でホタルイが少し残った。残ったホタルイはいずれも花茎抽出期の大株だった。 処理4日後の5月7日に大雨と強風によるオーバーフローがあったが、確認ほ場に雑草はなく、除草効果は高かった。 無処理区で雑草が発生しなかったことは、5月7日の大雨と強風によるオーバーフローが影響したと考えられる。 ○担当農家からの意見 無人航空機の使用は、散布時の気象に左右されやすいが、散布可能なコンディションにおいて非常に楽に短時間で散布できた。 散布した4日後に荒土となったが、薬効はしっかり現れており、残効もはっきりあったと思う。例年ホタルイに悩まされていたが、 現時点で甚大な取りこぼしはないように思う。また、慣行ほ場と比較した場合、藻類・アオミドロによる表層剥離に対する効果もあったように思えた。 確認圃の方が残効性が高く、効果的な農薬だと思った。													

No. 22 (移植)

薬剤名 カラット1キロ粒剤/キラリ1キロ粒剤
県名 滋賀県作物 移植水稻
実施場所 高島農産普及課(高島市安曇川町横江字東海渡)
農家名 梅村 廣毅

区分 一発処理

担当者名 三木 幸次

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	稚苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)
慣行 10 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	稚苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理1回目	カラット1キロ粒剤/キラリ1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理2回目					
	処理3回目					
慣行	処理1回目	カウンシルコンブリー1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理2回目					
	処理3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 7月6日 (+40)		被害		評点
	ノビエ	カタリクサ類	一年生広葉				ホタルイ	多年生雑草				総計 下段①は慣行比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					0					0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0					0					0 (100%)	無	100%	

備考	無処理区での発生雑草(発生程度): 確認圃・無処理区(発生なし)、慣行圃・無処理区(アゼナ、オモダカ、コナギ)。※畦畔沿いにおける発生草種(イボクサ、セリ、ノビエ)													
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行薬剤と比較して、処理時の取り扱いには問題はなく、効果も同等であった。													

No.23

薬剤名 ラオウジャンボ
県名 滋賀県作物 移植水稻 区分 一発処理
実施場所 大津・南部農産普及課 (野洲市比留田)
農家名 重高 秀志 担当者名 和田 真歩

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植草丈・葉齢	中干
確認圃 32.9 a	85.7m	壤土	コンクリ 畔塗なし	コシヒカリ	早期	稚苗移植栽培	2023年 4月27日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.5 L	+45~57 (6日間)
慣行 30.8 a	85.7m	壤土	コンクリ 畔塗なし	コシヒカリ	早期	稚苗移植栽培	2023年 4月27日	2023年 4月28日	1 cm/日	14.5 cm 2.5 L	+45~57 (6日間)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	ラオウジャンボ 10個(250g)	4月29日 (+1)	畦畔から投入	14.5cm 2.5L	未発生
	処理 2回目					2023年 4月28日
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	流星1キロ粒剤 1kg	4月28日 (+0)	田植同時散布	14.5cm 2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 6月12日 (+45日)				被害		評点	
	ノビエ	カタツリグサ類	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草				総計 下段(ノビエ)は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0					0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0				0					0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): 【確認圃】ヒメミソハギ:1.0g/m ² 、クサネム:0.2g/m ² 【慣行】ヒメミソハギ:0.2g/m ²													
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 散布時間:10分 散布人数:1人 慣行の除草剤と比較して、十分な除草効果があった。													

No.24

(移植)

薬剤名 ラオウジャンボ
県名 滋賀県作物 移植水稻 区分 一発処理
実施場所 甲賀農産普及課(湖南市 岩根)
農家名 (有)ティアイケイ農産 担当者名 池原紫乃

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	140m	壤土	土畦畔 畔塗りあり	山田錦	早植	稚苗機械移植	2023年 5月8日	2023年 5月10日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+47~56 (5日間)
慣行 30 a	140m	壤土	土畦畔 畔塗りあり	山田錦	早植	稚苗機械移植	2023年 5月8日	2023年 5月10日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+47~56 (5日間)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	ラオウジャンボ 10個(250g)	5月15日 (+5日)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ジェイソウルジャンボ 10個(450g)	5月15日 (+5日)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 6月21日 (+42日)				被害		評点		
	ノビエ	カタツリグサ類	コナギ	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草				総計 下段(ノビエ)は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行	
確認圃	0	0	0.8					0					0.8 (12%)	無	100%	A
慣行	0	0	0					6.8					6.8 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ノビエ:76g/m ² ホタルイ:394g/m ² コナギ:7g/m ²															
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 特記事項:散布準備時間:約5分、散布時間:約5～10分/30a、散布人数:1人 深水で長期間管理されており、そのことによる抑草効果も考えられる。															

No.25

(移植)

薬剤名 ラオウ1キロ粒剤
県名 滋賀県作物 移植水稻
実施場所 高島農産普及課(高島市安曇川町横江字東海渡)
農家名 梅村 廣教

区分 一発処理

担当者名 三木 幸次

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植面積・畝幅	中干
確認圃 30 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	稚苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)
慣行 45 a	85m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	早植栽培	稚苗機械移植	2023年 5月26日	2023年 5月27日	1 cm/日	16.5 cm 2.5 L	+45~62 (17日)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量)(/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	ラオウ1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	カウンスルコンブリート1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	田植同時 0cm→4cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 7月6日 (+40)		薬害		評点
	ノビエ	カヤツリクサ類	コナギ	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草			オモダカ	総計 下段には慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0	0				0				0	0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0	4.2				0				0	4.2 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ※確認圃・無処理区(発生なし) 慣行圃・無処理区(発生なし) ※畦畔沿いにおける発生草種(イボクサ、セリ、ノビエ) 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行薬剤と比較して、取り扱いや処理後の効果について特に問題となるようなことはなかった。														

令和5年度 新農薬委託試験一覧表

委 託 先	件 数	受 託 先
農業技術振興センター	29	日植防及び日植調

No.	区 分	薬 剤 名	対象作物	対象病害虫・雑草	委託先
1	除草剤	HOK-2002-250g 拡散粒	水 稻	一年生雑草、多年生雑草	栽培研究部
2		HOK-2103-250g 拡散粒	〃	〃	
3		MIH-211 0.5kg 粒	〃	〃	
4		KYH-1803 1kg 粒	〃	〃	
5		JA-23005 EXP-002液	〃	基礎 ①品質向上効果(整粒向上)の検討 ②高温登熟下における白未熟粒等発生 軽減効果の検討	
6	殺菌剤	MIF-2302 フロアブル	水 稻	紋枯病 1250倍	
7		NF-190 フロアブル(A)	小 麦	赤かび病 1000倍	
8		NF-190 フロアブル(B)	小 麦	赤かび病 1000倍	
9	殺虫剤	S-8535箱粒剤	水 稻	ヒメビウナ・ツマグロヨコハイ 播種時覆土前 50g/箱	環境研究部
10		SYJ-321SC	〃	ヒメビウナ ①100倍 0.5L/トレイ 播種時灌注 ②100倍 0.5L/トレイ 移植当日灌注 ③200倍 0.5L/トレイ	
11		NC-521粒剤	〃	ウナカ類・ツマグロヨコハイ 育苗箱 播種時覆土前処理 50g/箱	
12		①NK-2301EW ②NK-2302SC 農薬メー カーから試験中止要請	だいず	カメムシ類 ①2000倍 ②4000倍散布 カメムシ類 ①3000倍 ②4000倍散布	
13		カスケード乳剤新処方	だいず・ えだまめ	4000倍散布【指定対象薬剤】現行カスケード乳剤4000倍	
14		OAT-1103 フロアブル	ね ぎ	ネギアザミウマ 200倍灌注移植7日前 セル成型 育苗トレイ1箱またペーパーポット1冊あたり0.5L	
15		OAT-1103 フロアブル	ね ぎ	ネギアザミウマ 400倍灌注移植7日前 セル成型 育苗トレイ1箱またペーパーポット1冊あたり0.5L	
16	殺虫剤	BAI-1930SC	き く	アブラムシ類 茎葉散布 2000倍	花:果樹研究部
17	殺菌剤	AKD-5195SC	ぶどう	うどんこ病 2000倍・散布	
18		カッシーニフロアブル	〃	うどんこ病 2000倍	
19		CAF-2301SC	〃	うどんこ病 2000倍・散布	
20		AKD-5195SC	か き	うどんこ病 4000倍・散布	
21		AKD-5195SC	〃	うどんこ病 2000倍・散布	
22		カッシーニフロアブル	〃	うどんこ病 2000倍	茶業指導所
23	殺虫剤	エフィコンSL	茶	チャトゲコナジラミ 1000倍 散布	
24		エフィコンSL	〃	チャトゲコナジラミ 500倍 散布	
25		サイモデイスDC	〃	チャトゲコナジラミ 4000倍 散布	
26		NNI-2101 SC100	〃	チャノホソガ 2000倍 散布	
27		サフオイル乳剤	〃	カンザワハダニ 300倍 散布	
28		BAI-1930SC	〃	チャノホソガ 1000倍 散布	
29	薬臭試験	HOF-2301水和剤	茶	500倍・散布摘採1.3.7.14日前400L/10a	

- 「植物防疫」第69号第2号をお届けします。本誌では令和5年度の協会の事業実績をまとめています。病虫害防除実績の取りまとめについては、各地域農業センターに依頼いたしました。関係各位のご協力に深く感謝を申し上げます。
- 令和5年産の水稻作柄は、田植以降の日照不足で分けつが抑制されたが、6月中旬以降の高温・多照に推移したことから出穂期は平年より早くなった。7月下旬から8月上旬が記録的な高温となった影響を受け、不稔もみが平年より多く発生した。また、8月上旬以降の天候不順により一部地域でいもちが発生したこと等により収量が減少し、作柄指数は「やや不良の97」となりました。
- 令和5年度の無人ヘリコプターの事故は3件発生しました。鉄塔への接触、獣害対策設備への接触、オペレーターの転倒によるもので原因は、目測誤りおよび事前確認不足によるものでした。
次年度も事前確認の徹底と無人ヘリ実施団体独自の安全飛行研修会の開催を呼びかけ、事故「ゼロ」へ向けての取組みに努めていきたいと考えています。
- 令和5年度の「ドローンによる植防協会委託防除」の受託面積は、238.3haとなり、昨年を少し下回りました。各地域ではドローンによる防除が増加し、無人ヘリを利用した防除面積は減少しているものの、水稻・麦・大豆で18,041haの面積が散布されています。特に大豆においては前年対比134%と散布面積が増加しておりまだまだ無人ヘリ防除による共同防除が大きな役割を果たしています。
- 機関紙としましては、前号（第68号）で終了いたしました。今後は情報誌として内容は縮小となりますが継続して発行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

滋賀植物防疫 第69巻 第2号（令和6年3月発行）

発行所 一般社団法人 滋賀県植物防疫協会

〒520-0051 大津市梅林一丁目14番17号

TEL 077-521-8964 FAX 077-521-8977

E-mail shiga-syokubo@cap.ocn.ne.jp

ホームページ www.shiga-syokubo.or.jp/index.php

